

esse-  
sense

# FUTURE FORUMS

# esse-sense Future Forum 2025

株式会社esse-sense(エッセンス)は、2025年9月18日-19日の2日間に渡って東京・八重洲にて「esse-sense Future Forum 2025」を開催します。

研究者は、未来の構想と実現のその両方において強い役割を果たしてきました。技術予測と新技術の誕生、地球環境の変動、国際関係と地政学など、研究者の知見を活かして生み出され、また新たな考えに基づく開発は研究者の活動や研究者との協働によって生み出されています。

本フォーラムは、未来社会を描き実現するための知の共創、次の時代をになっていくための最先端トピックス、ディープテック&サイエンススタートアップとの連携、研究知を社会に届けるための資金エコシステム、社会を動かしていくためのイノベーション&リーダーシップ、研究知が社会につながるための企業との出会いのデザイン、研究知による実行としてのディープテックスタートアップという7つのテーマに沿って計36の様々な形態のセッションを行う複合型カンファレンスです。

本年は、テーマを「知の共創と未来への道程 —The Path to the Future.」と置きました。研究者の知見と未来洞察及び未来創造の顕密な関係を活かし、未来への道筋を獲得するための2日間です。会場は東京駅と接続する東京ミッドタウン八重洲。170名の登壇者と1,000名の現地参加者をお迎えし、国内最大の研究知ビジネスカンファレンスとして開催します。

また、esse-senseでは、23.5万人の研究者データベースを構築し、データ&AIドリブンな未来創造のための基盤を構築しました。この秋からesse-senseが実行する新たな未来創造の可能性についても、DAY1とDAY2の冒頭の特別対談で共有していきます。

esse-senseが一年間の積み上げと共に総力を上げて準備してきた未来に出会える2日間を共に楽しめればと思います。そして、新たな未来への道筋を見出し、翌日からの取り組みや成を大きく変える2日間になればと考えています。

当日、多くの皆様とお会いできることを楽しみにしています。

株式会社エッセンス 代表取締役 西村勇哉



# ABOUT

日時 | 2025年9月18日(木)19日(金)10:00-19:00(交流会19:00-20:30)  
会場 | 東京ミッドタウン八重洲イノベーションフィールド4F・5F(受付4F)

主催

esse-  
sense

共催

 MIRA TUKU

エコシステムパートナー

 STORIUM

共催パートナー

 Greater  
Tokyo  
Innovator  
Ecosystem

*Cingulate*

特別協力

 Beyond  
Next  
Ventures

UntroD  
Capital Japan

 Genesis  
Ventures

 MICHINOKU  
ACADEMIA  
STARTUP  
PLATFORM

 HSFC

 TeSH  
Tech Startup HUB

 IJIE  
Island  
Japan  
Innovation  
Ecosystem

 PARKS

 PSI  
Peace Science Innovation

協力

 OIST

RITSUMEIKAN

 UTRA  
Commons

 Economic Design Inc.

BE-SILO

 LabBase

 WILSON LEARNING

薩摩会議  
SATSUMA CONFERENCE

 Future  
Design Initiative by  
Science and  
Finance

 EMP

taliki

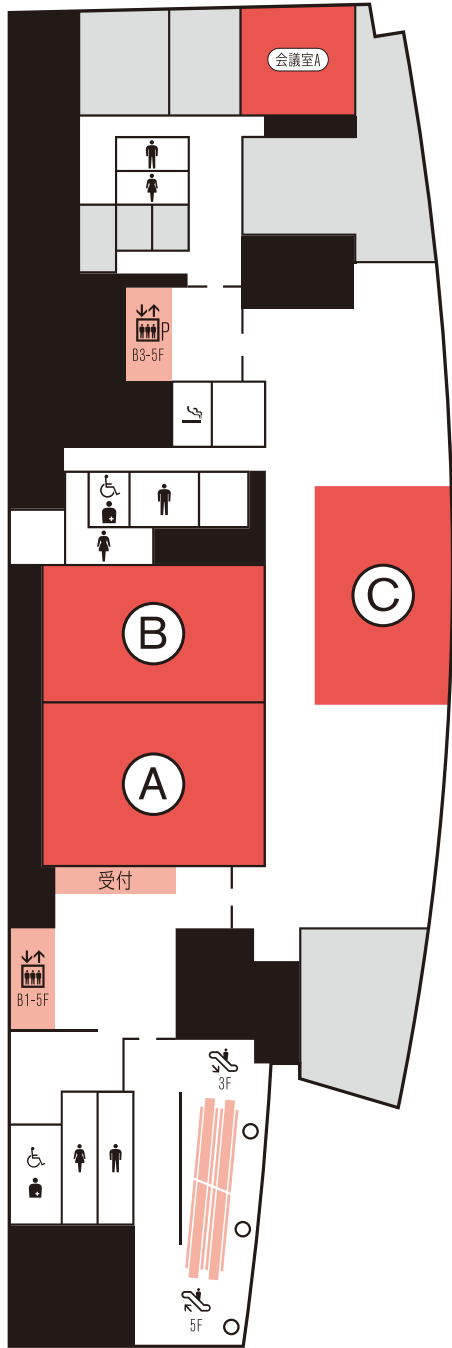
 Morning Pitch

 WE  
AT

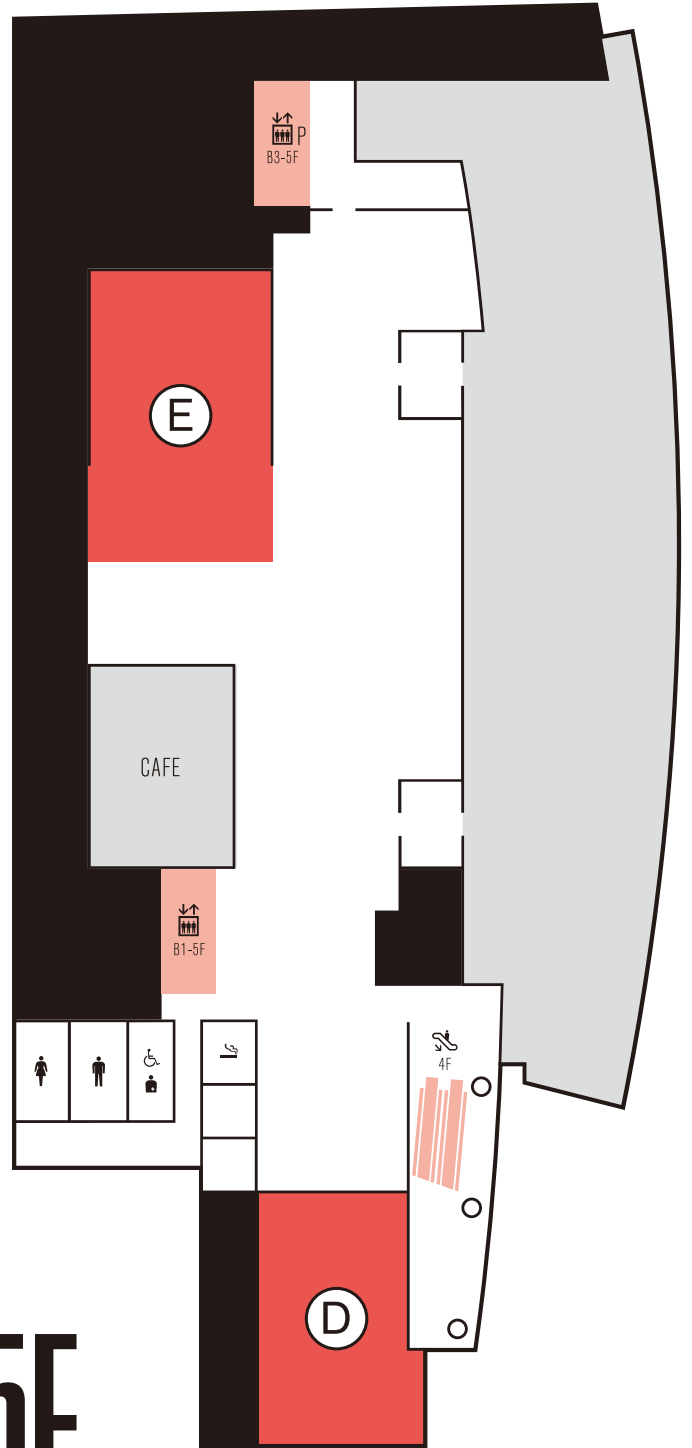
 越境

STELLAR  
SCIENCE  
FOUNDATION

# MAP



4F



5F

# PROGRAM

|   |            |
|---|------------|
| イントロダクション   | 4F (○) (B) |
| 特別対談<br>AI時代の新たな研究と経済の接続 研究者の見える化の先に起こす未来<br>西村勇哉   安間裕   松尾英里子                         | 4F (○) (B) |
| 基調講演・特別鼎談<br>地球を救う科学 企業・スタートアップ・研究の連携とインパクトの拡大<br>竹村真一   西山泰央   小川立夫   西村勇哉             | 4F (○) (B) |
| 特別プレゼンテーション<br>バックキャストから創造される新たな科学とスタートアップ<br>武田秀太郎   諸藤周平   松尾英里子                      | 4F (A) (B) |
| LUNCH   |            |
| Break out Meeting   |            |
| Future Session<br>ネイチャーポジティブと自然と共生するための科学<br>見宮美早   西廣淳   高倉葉太   福永真弓   安田仁奈   黒井理恵     | 4F (A)     |
| Panel & Dialog<br>世界を超える日本人発グローバル・ディープテックスタートアップ<br>赤畑渉   田邊剛土   森岡和仁   仲田真輝   佐藤将史     | 4F (B)     |
| Panel & Dialog<br>ZERO INSTITUTE グローバルに活躍する若手研究者の新たなエコシステム創出<br>渡邊拓   岸裕一郎   遠山毅   西村勇哉 | 4F (C)     |
| Special Session<br>サイエンススタートアップと知的資本が循環する資金<br>永田暁彦   笹原優子   越智敬之   武田浩嵩   松尾英里子        | 5F (D)     |
| Dialog Table<br>組織のwell-beingを実現する科学を問う<br>篠田真貴子   仲隆介   石津智大   安田洋祐                    | 5F (E)     |

Break out Meeting

# DAY 1 Sept. 18

|             |   |        |
|-------------|---|--------|
| 15:45-17:00 | Future Session<br>AI、ロボティクス、創発 情報科学との繋がりが起こす未来<br>牛久祥孝   谷口忠大   南澤孝太   篠田真貴子                                    | 4F (○) |
|             | Panel & Dialog<br>ディープテックの未来を支える経営人材との邂逅<br>佐久間美帆   仁科貴   白坂成功   長尾昂   吉田和哉   佐藤将史                              | 4F (B) |
|             | Panel & Dialog sponsored by サントリー生命科学財団<br>未来に向けて取り組むべき研究を支える民間財団の役割<br>宇佐美誠   砂川玄志郎   西本正三   藤田淑子   西村勇哉       | 4F (○) |
|             | Pitch Session & Dialog: 6 Startup   ディープテック:イノベーションの源泉に出会う 1<br>気候変動・エネルギー危機時代に求められる新たなサイエンス&テクノロジーの未来<br>黒井理恵  | 5F (D) |
|             | Dialog Table<br>企業CVCとサイエンススタートアップの連携を問う<br>笹原優子   藤本宏樹   田崎有城   松下祥子   高倉葉太   谷本有香                             | 5F (E) |
| 17:05-17:25 | Break out Meeting   |        |
| 17:30-18:45 | Future Session<br>情報の先にある感性 AI時代に浮上する新たな価値<br>石津智大   大黒達也   中西裕子   福本理恵   羽山康之   谷本有香                           | 4F (○) |
|             | Lecture & Dialog<br>未来創造を実現するリーダーシップの育て方<br>米倉誠一郎   三浦英雄  | 4F (○) |
|             | Special Session<br>100年先の未来を覆すインパクト&サイエンス<br>砂川玄志郎   武田秀太郎   鈴木健吾   牛久祥孝   西村勇哉                                 | 4F (○) |
|             | Pitch Session & Dialog: 6 Startup   ディープテック:イノベーションの源泉に出会う 2<br>あらゆる産業にAIが組み込まれる先に生きる新たなサイエンス&テクノロジーの未来<br>黒井理恵 | 5F (D) |
|             | Dialog Table<br>科学がイノベーションと出会う時—惑星科学編<br>岡島礼奈   橋省吾   中村貴裕   隅屋輝佳   | 5F (E) |

19:00-20:30 Party

# AI時代の新たな研究と 経済の接続 研究者の見える化の先に起こす未来

2025年9月、株式会社esse-senseは研究者探索の新たなツールをリリースします。AIを用いた様々な工夫によって実現した研究者の見える化は、ゴールではなくさらに先の未来に続く一歩です。本セッションでは、アバナード前会長の安間裕氏とesse-sense代表取締役の西村勇哉が、研究と経済が接続する新たな未来についてその道程を共に探求します。

10:15-11:00

DAY 1

Sept. 18



西村勇哉

株式会社エッセンス 代表取締役 /  
NPO法人ミラツク 代表理事

1981年大阪府池田市生まれ。大阪大学大学院にて人間科学の修士を取得。人材開発ベンチャー企業、公益財団法人日本生産性本部を経て、2011年にNPO法人ミラツクを設立し代表に就任。セクターや職種、領域を超えたイノベーションプラットフォームの構築や大手企業の新規事業開発支援、研究開発プロジェクトの立ち上げ支援などに取り組む。2017年から2022年3月まで理化学研究所未来戦略室イノベーションデザイナーを兼務。2021年に株式会社エッセンスを創業し、研究知と社会をつなぐ「Knowledge Tech」事業を展開。大阪大学社会ソリューションイニシアティブ招聘教授も務める。



安間裕

アバナード 前会長

1959年生まれ。1982年明治大学文学部卒業。団体保険会社、外資系商社を経て、1998年アクセンチュア入社。日本でアクセンチュア・テクノロジー・ソリューションズ株式会社を設立し、2002年同社代表取締役社長に就任。2009年アクセンチュア執行役員を経て、2014年アバナード株式会社代表取締役社長に就任。2022年社長退任後は会長職に就任、2023年8月に退任。現在は企業アドバイザー等として活動。

モデレーター



松尾英里子

株式会社Chewing News取締役  
フリーアナウンサー

1982年生まれ。早稲田大学商学部卒業後、日本テレビに入社し、アナウンサーとして「NEWS ZERO」をはじめ報道・スポーツ番組のキャスターを務める。2013年よりフリーに。現在は経済キャスターやモデレーターとして、各種メディアやビジネスイベントで幅広く活躍。慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科修士課程修了。

# 地球を救う科学

## 企業・スタートアップ・研究の連携と インパクトの拡大

人類学者の竹村眞一さんは、46億年の地球史における現代という時代に至る流れと人類が科学の力を生かしていきれていない現状を問います。私たちは、科学と技術をどのようなビジョンのもとに生かしていくことができるのか。一般社団法人Planetary Platformers Initiativeを共に立ち上げられた博報堂DYホールディングス代表取締役の西山泰央さんとともに、企業の力と科学の力の共創によって実現するビジョンについて伺っていきます。

11:05-12:20

DAY 1

Sept. 18



竹村眞一

一般社団法人Planetary Platformers Initiative  
共同代表理事 / ZEN大学知能情報社会学部  
教授

1959年大阪府生まれ。東京大学文学部哲学科卒業、同大学院文化人類学博士課程修了。文化人類学者として地球環境や文明論を研究。世界初のデジタル地球儀「触れる地球」を発案し、2005年グッドデザイン金賞受賞。NPO法人Earth Literacy Program代表。2025年よりZEN大学教授、Planetary Platformers Initiative共同代表理事。



西山泰央

一般社団法人Planetary Platformers Initiative  
共同代表理事 / 博報堂DYホールディングス  
代表取締役

1966年東京都生まれ。上智大学法学部卒業。1989年博報堂入社。2019年博報堂執行役員、2023年博報堂取締役常務執行役員を歴任。2025年に博報堂DYホールディングス代表取締役社長COOに就任。2025年4月、Planetary Platformers Initiativeを竹村眞一氏と共同設立し共同代表理事。



小川立夫

パナソニックホールディングス株式会社  
執行役員グループCTO

1964年兵庫県生まれ。1989年大阪大学理学部卒業後、松下電子部品株式会社に入社。電子部品研究所や本社研究所にてデバイス・材料の開発に従事し、米国ジョージア工科大学に研究員として留学して先端実装技術開発を経験。デバイス事業分野の企画・研究開発部門長、技術戦略スタッフ部門長、生産技術本部長等を歴任し、2018年執行役員 生産革新担当に就任。2019年にはパナソニック オートモーティブ社副社長(製造担当)兼車載システムズ事業部長を務め、2021年よりパナソニックグループのCTOに就任。

モデレーター



西村勇哉

株式会社エッセンス 代表取締役 /  
NPO法人ミラツク 代表理事

1981年大阪府池田市生まれ。大阪大学大学院にて人間科学の修士を取得。人材開発ベンチャー企業、公益財団法人日本生産性本部を経て、2011年にNPO法人ミラツクを設立し代表に就任。セクターや職種、領域を超えたイノベーションプラットフォームの構築や大手企業の新規事業開発支援、研究開発プロジェクトの立ち上げ支援などに取り組む。2017年から2022年3月まで理化学研究所未来戦略室イノベーションデザイナーを兼務。2021年に株式会社エッセンスを創業し、研究知と社会をつなぐ「Knowledge Tech」事業を展開。大阪大学社会ソリューションイニシアティブ招聘教授も務める。

11:05-12:20

DAY 1

Sept. 18

# バックキャストから創造される 新たな科学とスタートアップ

未踏の領域を実現するために、新たな産業創出とあらたな学術的な成果はどのように両立するのか。この一見全く異なる2つの領域に同時に取り組む武田秀太郎さんは、核融合が社会で駆動する未来からバックキャストされた未来起点のスタートアップ京都フュージョニアリングを2019年に設立し、数百億円規模の資金調達を実現しながら、単独の技術開発ではなく横断的な技術融合に取り組めます。技術を世の中に出すのではなく、世の中を変えるための技術を集めるというバックキャスト型の事業創造のあり方について伺います。

12:25-12:50

DAY 1

Sept. 18



武田秀太郎

慶應義塾大学KMD研究所フュージョン  
インダストリー研究センター センター長

1989年三重県生まれ。京都大学工学部卒業。2018年京都大学大学院博士課程を飛び級修了し博士(エネルギー科学)取得。2019年京都フュージョニアリング株式会社を共同創業。IAEA勤務、京都大学特定准教授、九州大学准教授を経て、2025年より慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科准教授に着任。専門はサステナビリティ学、核融合工学。

特別コメントーター



諸藤周平

一般財団法人雲孫財団 代表理事 /  
REAPRA グループ CEO

1977年生まれ。九州大学経済学部卒業。エス・エム・エスの創業者、社長として同社の東証一部上場、アジア展開などを牽引し、退任。2015年にREAPRAをシンガポールにて創業。アジアを中心に事業グループを形成し、世代を跨ぐような社会課題を解決する産業の創造に向けた学習支援会社として投資活動をおこなう。社会とともにイキイキと生き続ける力を引き出す教育活動を行う活育財団や、9世代先を見据えた豊かさを模索する一般財団法人雲孫財団も運営する。

モデレーター



松尾英里子

株式会社Chewing News取締役  
フリーアナウンサー

1982年生まれ。早稲田大学商学部卒業後、日本テレビに入社し、アナウンサーとして「NEWS ZERO」をはじめ報道・スポーツ番組のキャスターを務める。2013年よりフリーに。現在は経済キャスターやモデレーターとして、各種メディアやビジネスイベントで幅広く活躍。慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科修士課程修了。

# ネイチャーポジティブと 自然と共生するための科学

ネイチャーポジティブへの移行に伴い、世界では2030年までに年間最大約1,372兆円、日本では年間最大約104兆円の事業機会が生まれるとされています。日本でも2024年に環境省が「ネイチャーポジティブ経済移行戦略」を提示し、新たな産業機会への期待が高まります。一方で、自然との共生とはどのようなものか。人類学、生態学など多分野の知見と共に、より高い解像度からその本質を探り出します。



見宮美早

2027 GREEN EXPO協会  
サステナビリティ推進部長

大学院で国際経済・公共政策を学び、公共政策修士号を取得。1995年旧国際協力事業団（JICA）入団後、ケニア・フィリピン事務所などで環境や災害復旧を担当。地球環境部 森林・自然環境グループ企画役などを経て、2023年サステナビリティ推進特命審議役。2025年4月よりGREEN EXPO協会に参画、サステナビリティ推進を担う。



西廣淳

国立環境学研究所  
気候変動適応センター 副センター長

土木研究所研究員、東京大学農学生命科学研究科助教、東邦大学理学部准教授を経て、2019年に国立環境研究所気候変動適応センターに入所。専門は生態学。地域協働によるグリーンインフラの活用に取り組む。日本生物多様性観測ネットワーク（JBON）代表、里山グリーンインフラネットワーク代表、東邦大学大学院客員教授、東京大学大学院連携併任教授。



高倉葉太

株式会社イノカ 代表取締役

1994年生まれ。兵庫県出身。東京大学工学部を卒業、同大学院暦本純一研究室で機械学習を用いた楽器の練習支援の研究を行う。2019年4月に株式会社イノカを設立。サンゴ礁をはじめとする海洋生態系を室内空間に再現する「環境移送技術®」を構想し、研究開発を推進。2021年10月より一般財団法人 ロートこどもみらい財団理事に就任。同年、Forbes JAPAN「30 UNDER 30」に選出。



福永真弓

東京大学大学院新領域創成科学研究科  
環境学研究系 教授

東京大学社会文化環境学専攻准教授。2001年津田塾大学大学院国際関係論専攻修士課程修了、2007年日本学術振興会特別研究員、2008年東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学専攻博士課程修了、同年立教大学社会学部助教、2011年大阪府立大学21世紀科学研究機構工コサイエンス研究所准教授、2012年大阪府立大学現代システム科学域准教授を経て、2015年より現職。日本社会学会若手奨励賞（論文の部）、著書に「サケをつくる人びと 水産増殖と資源再生」（東京大学出版会）などがある。



安田仁奈

東京大学大学院農学生命科学研究科生圏  
システム学専攻生圏管理学講座 教授

2008年東京工業大学大学院情報理工学研究科博士課程修了（博士（工学））。日本学術振興会特別研究員DC1・PDとして研究に従事。2011年宮崎大学農学部助教、2014年准教授。2019年4月から海洋生物環境学科に勤務後、2022年4月より東京大学大学院農学生命科学研究科教授。専門は海洋生態学。サンゴ礁の無脊椎動物幼生の生態やオヒビデ大量発生仕組みの解明などに取り組む。

モデレーター



黒井理恵

株式会社アスノオト取締役/  
特定非営利活動法人ミラツク 理事

北海道名寄市出身・在住。東京で出版社編集者、企業PR・ブランディング会社CSRコンサルタントを経て、2014年にUターン。全国各地でワークショップデザイナー/ファシリテーターとして活動。まちづくり、長期ビジョン策定、チームビルディングなどをテーマに、自治体・企業・NPO・市民に向けた対話の場づくりを数多く手がけている。研究領域では2022～2024年度にArCSII国際政治課題「北極域実践コミュニティ」のファシリテーターを務めた。他、地域を旅する大学「さとのぼ大学」運営会社（株）アスノオト取締役など。

# 世界を超える日本人発 グローバル・ディープテック スタートアップ

日本人は0→1の科学創出は得意だけど、1を10、100と育てていく事業創出が苦手だ、ということは基礎研究から応用研究への発展への寄与を振り返る中で問われてきた感覚です。本セッションでは、海外を拠点に活躍する日本人のサイエンススタートアップの第一線のCEOに來日いただき、その是非を問うとともに、科学的な成果をもとにした事業創出の実際について共に知見を共有する特別な機会を用意しました。海外で活躍する日本人スタートアップ創業者が揃い、その可能性を提示します。



赤畑 渉

VLP Therapeutics CEO・Founder

京都大学大学院人間環境学研究所博士課程修了。2002年より米国NIHワクチン研究センターに勤務し、チクングニア熱のVLPワクチンを開発して注目を集め、2010年NIHワクチン研究センター賞、2012年NIH長官賞を受賞。2013年に米国メリーランド州でVLP Therapeuticsを創業。デング熱やマラリアなどのワクチン開発を進め、2019年からマラリアワクチンの臨床試験を開始。



田邊 剛士

I Peace, Inc. Founder &amp; CEO

京都大学大学院医学系研究科修了(山中伸弥教授の指導下で博士号取得)。iPS細胞研究の黎明期から研究に携わり、世界初のヒトiPS細胞作製論文で第二著者。2015年に米国シリコンバレーでI Peace, Inc.を創業し、iPS細胞の大量製造技術の開発に注力。2020年には全自動の密閉式カセットによる臨床グレードiPS細胞の量産技術を確立し、京都に製造拠点を設立して提供を開始。



森岡 和仁

UCSF 整形外科 Assistant Professor / 在サンフランシスコ日本国総領事館 科学技術フェロー / UJA 理事 / DDCSF JAPAN 共同代表

2000年慈恵医科大学卒業後、東京大学整形外科で臨床医として研鑽し、東京大学大学院で悪性腫瘍の研究により医学博士を取得。国立障害者リハビリテーションセンターで脊髄損傷の研究に携わった後、2012年よりUCSF 脳神経外科の脳脊髄外傷センターに研究留学。外傷における筋骨格系と中枢神経系の関係性を分子生物学・バイオインフォマティクスで研究。2020年からUCSF整形外科のAssistant Professorに就任し、治らない怪我の解明や治療開発に従事。日本の科学技術力のプレゼンス向上に向け、国際的な産官学連携の強化にも尽力。



仲田 真輝

Neural X Inc. CEO・Founder

東京大学卒業後に渡米し、UCLA大学院コンピュータサイエンス博士課程で人工生命の研究に従事。2019年2月、動作解析AI研究者と共に米国でNeural Xを創業しCEOに就任。海洋養殖分野で魚群行動をシミュレーションする独自技術を開発し、カメラ映像から魚の数や成長状態をAIで自動計測するソリューションを提供。養殖現場の効率化や餌の無駄削減を通じて持続可能な水産業を目指す。

モデレーター



佐藤 将史

Beyond Next Ventures株式会社 / 一般社団法人SPACETIDE 理事 兼 COO

2003年より野村総合研究所にて、イノベーション領域を中心に政策立案から企業戦略まで幅広くコンサルティング業務に従事。2013年ispaceに参画、日本初の宇宙スタートアップIPOの後、現職。Beyond Next Venturesにて宇宙領域アドバイザー及びスタートアップエコシステム整備に従事。並行して、一般社団法人SPACETIDEの共同設立者・理事兼COOとして、2015年より日本初の民間発宇宙ビジネスカンファレンス"SPACETIDE"の企画・運営を行う他、宇宙ビジネス振興の各種活動を展開している。東京大学理学部卒(地球惑星物理学)・同大学院理学系研究科修了(地球惑星科学)、カリフォルニア大学ロサンゼルス校公共政策大学院修了(公共政策学修士)。

## ZERO INSTITUTE

グローバルに活躍する若手研究者の  
新たなエコシステム創出

10兆円ファンドの運用益を用いた国際卓越大学の制度に初めて採択された東北大学では、2025年7月に、若手研究者の育成と科学とビジネスの交差に同時に取り組むZero Instituteを設立しました。本セッションでは、自らもVCと財団の代表を務め、Zero Instituteの設立に参画し副インスティテュート長として現場に飛び込む渡邊拓さんと共に、民間で培ってきた最前線の取り組みが大学の中でどのように機能し得るのかという視点を交えながら、科学とビジネスの交差の仕組み化について共に考えます。

14:00-15:15

DAY 1

Sept. 18



渡邊拓

HERO Impact Capital Founder&amp;General Partner

1992年、京都府生まれ。洛南高等学校卒業。慶應義塾大学退学。在学中にNPO法人AIESEC JAPAN代表を務める。AI特化型インキュベーター兼VCであるDEEPCOREへ2017年に参画し、研究開発型スタートアップへの創業期投資を担当。2021年、地球課題解決に貢献する次世代研究者を支援する財団「ZERO Foundation」を設立し、代表理事に就任。2022年、若手研究者と共同創業するベンチャーキャピタル「HERO Impact Capital」を設立、General Partnerに就任。同年、サステナブルファイナンスによるアカデミアへの新たな資金循環を促す一般社団法人科学と金融による未来創造イニシアティブを設立、理事に就任。



遠山毅

国立大学法人東北大学理事 産学連携担当

東北大学大学院工学研究科電子工学専攻修了。通商産業省入省後、内閣官房内閣参事官や産業技術総合研究所企画本部副本部長を歴任。2024年7月より、国立大学法人東北大学理事(産学連携担当)に就任。



岸裕一郎

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス  
CVC担当

新卒で株式会社ポーラに入社。入社後約半年で群馬支部に異動し、化粧品事業の販売促進および販売員の採用支援などを担当。2016年12月に新規事業提案を行い、2017年7月にベンチャープロジェクトチームに異動してCVC立ち上げ準備に着手。2018年1月に株式会社ポーラ・オルビスホールディングスに転籍し、コーポレートベンチャーキャピタル(CVC)を設立。運用後の累計投資数は50社以上に及び。2021年7月には投資先であったパーソナライズビューティケアブランド「FUJIMI」を展開するトリコ株式会社のM&Aを実施。現在はブランドに特化したスタートアップスタジオである「Brand Founders Studio」を立ち上げ。

モデレーター



西村勇哉

株式会社エッセンス 代表取締役/  
NPO法人ミラツク 代表理事

1981年大阪府池田市生まれ。大阪大学大学院にて人間科学の修士を取得。人材開発ベンチャー企業、公益財団法人日本生産性本部を経て、2011年にNPO法人ミラツクを設立し代表に就任。セクターや職種、領域を超えたイノベーションプラットフォームの構築や大手企業の新規事業開発支援、研究開発プロジェクトの立ち上げ支援などに取り組む。2017年から2022年3月まで理化学研究所未来戦略室イノベーションデザイナーを兼務。2021年に株式会社エッセンスを創業し、研究知と社会をつなぐ「Knowledge Tech」事業を展開。大阪大学社会ソリューションイニシアティブ招聘教授も務める。

# サイエンススタートアップと 知的資本が循環する資金

科学の成果が社会で生きるまでの道のりと経済の仕組みをつなぐことは、この世界の根幹を支える知的資本を経済の中に再接続する挑戦でもあります。本セッションは、長期的な目線を持ちながら短期的な成果も両立する、科学と事業の交差をつなぐ資金提供側として長年にわたって最前線を走ってきた方々をお招きし、その実際を共有しながら、仕組みとしての再生産の可能性を共に考えます。

14:00-15:15

DAY 1

Sept. 18



永田暁彦

UntroD Capital Japan株式会社  
代表取締役社長

株式会社ユーグレナの未上場期より、取締役として事業戦略・財務・バイオ燃料領域を主に管轄。2021年より同社のCEOに就任し全事業執行を務め、2024年退任。2015年、社会課題解決に資するディープテック投資を推進するリアルテックファンドを設立。2024年、同ファンドを運営するUntroD Capital Japanの代表取締役社長に就任。日本初のNPOを母体とするソーシャルインパクトIPOを果たした雨風太陽の創業および経営や、ヘラルドニーの経営顧問を務めるなど、資本主義におけるソーシャルインパクトの実現に注力している。



越智敬之

株式会社グランストーリー 代表取締役CEO

1974年神戸市生まれ。阪神淡路大震災を経て、情報インフラが人と社会をつなぐ力を痛感。サイバーエージェント、AOI Pro.、IDOMでマーケティングやクリエイティブ部門の戦略立案と組織再編、新規事業開発やオープンイノベーション、人材育成を担当。2019年、社会課題解決と新産業創造を目的に株式会社グランストーリーを創業。次世代イノベーションを牽引するスタートアップ・研究者・投資家・事業会社が集まるイノベーション・プラットフォーム「STORIUM」を運営中。



笹原優子

株式会社NTTドコモ・ベンチャーズ  
代表取締役CEO & CCO

1995年NTTドコモ入社。iモードの立ち上げから企画・仕様策定に携わり、その後携帯端末のラインアップ戦略やUIデザイン戦略を担当。2014年より社内内の新事業創出プログラムを運営し、インテリジェント育成を推進。2021年6月にNTTドコモ・ベンチャーズ代表取締役社長に就任し、スタートアップ投資と事業共創をリード。2023年6月からNTTドコモのライフスタイルイノベーション部長、2025年7月よりNTTドコモ・ベンチャーズCEO&CCOに復帰。2013年MITスローンフェローズMBA取得。



武田浩嵩

トヨタ自動車株式会社  
先進技術統括部 部長

1974年生まれ。名古屋大学工学研究科マイクロシステム工学専攻卒業後、2000年トヨタ自動車株式会社入社。グローバル展開車両のハード及び制御開発に従事。2020年に先進プロジェクト推進部 部長として事業開発、2022年より先進技術統括部 部長(現職)として、モビリティに関連する未来社会を見据えた研究開発・リソース企画を推進。また、同年よりトヨタテクニカルディベロップメント株式会社 監査役(現職)、2023年より株式会社コンボン研究所 監査役(現職)も務める。

モデレーター



松尾英里子

株式会社Chewing News取締役  
フリーアナウンサー

1982年生まれ。早稲田大学商学部卒業後、日本テレビに入社し、アナウンサーとして「NEWS ZERO」をはじめ報道・スポーツ番組のキャスターを務める。2013年よりフリーに。現在は経済キャスターやモデレーターとして、各種メディアやビジネスイベントで幅広く活躍。慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科修士課程修了。

# 組織のwell-beingを実現する 科学を問う



篠田真貴子

エール株式会社 取締役 /  
株式会社エッセンス 創業メンバー

エール株式会社取締役。社外人材によるオンライン1on1を通じて、企業の組織改革を支援している。2020年3月のエール参画以前は、日本長期信用銀行、マッキンゼー、ノバルティス、ネスレを経て、2008～18年ほぼ日取締役CFO。慶應義塾大学経済学部卒、米ペンシルバニア大ウォートン校MBA、ジョンズ・ホプキンス大国際関係論修士。人と組織の関係や女性活躍に関心を寄せ続けている。「LISTEN——知性豊かで創造力がある人になれる」監訳



仲隆介

京都工芸繊維大学 名誉教授

東京理科大学工学部助手、マサチューセッツ工科大学建築学部客員研究員(フルプライター)、宮城大学助教授、京都工芸繊維大学教授等を経て、現職。建築学と経営学の融合分野において、ワークプレイスをテーマの研究を行っており、同時に、企業や自治体と次世代のワークプレイスを模索する活動を展開している。新世代クリエイティブオフィス研究センター長、日経ニューオフィス賞審査委員、JFMA賞審査委員、長崎新県庁舎、西予市役所など多数の自治体アドバイザー、厚木市、北区他庁舎建築審査員などを務める。著書(共著)に、「変化するオフィス(丸善)」「オフィスの夢(彰国社)」「Post Office (TOTO出版)」「Collaborative Design and Learning: Competence Building for Innovation (PRAEGER)」 などがあ



石津智大

関西大学 文学部 教授

関西大学文学部教授。2009年に慶應義塾大学大学院社会学研究科心理学専攻で心理学博士号を取得し渡欧。ロンドン大学ユニバーシティ校生命科学部生物科学科リサーチフェロー(2009-2016)、ウィーン大学心理学部リサーチャー(2016-2018)、ロンドン大学ユニバーシティ校生命科学部生物科学科シニアリサーチフェロー(2018-2020)などを経て現職。

人的資本経営の観点から、企業における構成員のウェルビーイングは単なる福利厚生ではなく経営戦略上重要な投資すべき重点領域へとシフトしてきました。本セッションでは、その最前線で取り組む篠田真貴子さんに豊富な事例と話題を提供いただきながら、ウェルビーイングの科学に取り組む多分野の研究者とともに、エビデンスベースな組織開発について理解を深めます。

モデレーター



安田洋祐

大阪大学 大学院経済学研究科 教授

1980年生まれ。2007年プリンストン大学で経済学Ph.D取得。政策研究大学院大学助教授、大阪大学准教授を経て2022年7月より大阪大学教授。専門はゲーム理論とマーケットデザイン。オークションやマッチングなど市場制度の設計に関する研究を行い、2020年に株式会社エコノミクスデザインを共同創業。テレビや著書を通じて経済学の普及にも努め、ダイバーシティやサステナビリティに関する発信・提言も行う。

# AI、ロボティクス、創発 情報科学との繋がりが起こす未来



牛久祥孝

株式会社NexaScience 代表取締役 /  
オムロン サイニクエックス株式会社  
リサーチバイスプレジデント

東京大学大学院情報理工学系研究科博士課程修了。  
NTT研究所研究員、東京大学講師などを経て2018年より  
オムロン サイニクエックス株式会社の立ち上げに参  
画、2024年よりリサーチバイスプレジデント。また2024  
年より株式会社NexaScienceを創業。画像やテキストを用  
いた生成AIや、AI for Scienceなどの研究に従事。2021年  
ヤマト科学賞受賞、2023年NISTEP「ナイスステップな研  
究者」選出。



谷口忠大

京都大学 大学院情報学研究所 教授

1978年京都市生まれ。2001年京都大学工学部卒業、  
2006年同大学院工学研究科博士課程修了(博士(工  
学))。2008年立命館大学情報理工学部助教、2010年准  
教授、2015~2016年インペリアル・カレッジ・ロンドン客  
員准教授を経て、2017年立命館大学教授。2024年より  
京都大学大学院情報学研究所教授。人工知能、創発シ  
ステム、認知ロボティクスが専門で、記号創発システ  
ム論を提唱。ヒプリオバトルの考案者としても知られる。



南澤孝太

慶應義塾大学  
大学院メディアデザイン研究科 教授

慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科(KMD)教  
授。2005年東京大学工学部計数工学科卒業、2010年同  
大学院情報理工学系研究科博士課程修了、博士(情報  
理工学)。KMD Embodied Media Projectを主宰し、身体的  
経験を共有・創造・拡張する身体性メディアの研究開発  
と社会実装、Haptic Design Project を通じた触覚デザイン  
の普及展開を推進。日本学術会議若手アカデミー幹事、  
テレイグジスタンス株式会社技術顧問、科学技術振興  
機構ムーンショット型研究開発事業・目標1プロジェクト  
マネージャー。

ChatGPT3.5、4、そして5と世の中での浸透と発展が続く中で、AIという言葉が事業の世界でも急速に当たり前化してきました。一方で、たった2文字で表現されるAIという概念は、実際にはどこに向かって可能性を開いているのでしょうか。本セッションでは、長年にわたり学術的な最前線とその活用の最前線を行き来し続ける登壇者と共に、我々が手にしようとしている未来の可能性を問います。

モデレーター



篠田真貴子

エール株式会社 取締役 /  
株式会社エッセンス 創業メンバー

エール株式会社取締役。社外人材によるオンライン1on  
1を通じて、企業の組織改革を支援している。2020年3月  
のエール参画以前は、日本長期信用銀行、マッキンゼー、  
ノバルティス、ネスレを経て、2008~18年ほぼ日取締  
役CFO。慶應義塾大学経済学部卒、米ペンシルバニア大  
ウオートン校MBA、ジョンズ・ホプキンス大国際関係論修  
士。人と組織の関係や女性活躍に関心を寄せ続けている。  
『LISTEN——知性豊かで 創造力がある人になれる』  
監訳

# ディープテックの未来を支える経営人材との邂逅

ディープテックスタートアップには技術だけでなく経営人材がいてはじめてスタートアップとしての発展を描ける。こうした考え方は、大学発スタートアップやディープテックスタートアップへの理解が深まる中で一つの基軸となっています。一方で、実際にどのように経営人材との協働を生み出すかは、未達の課題として残ります。その解決の鍵となるのは、経営人材を育成するMBAをはじめとした経営側の人材育成機関との連携と仮説し、本セッションでは自らも創業者として取り組む登壇者らと共にその可能性について問います。



佐久間美帆

Q Partners LLC 創業者・代表

ワシントンD.C.のマッキンゼー・アンド・カンパニーでライフサイエンス部門のアソシエイト・パートナーとして米欧日の製薬企業に戦略・組織設計・事業開発等のコンサルティングに従事し、その後ハーバード大学でMBAを取得。2022年に米国ワシントンD.C.でライフサイエンス分野に特化したコンサル企業Q Partners LLCを創業し、日本のライフサイエンス企業の米国進出を支援している。



仁科貴

BlocQ, Inc. 共同創業者・COO

日本国財務省にてG7・G20など国際会議向けの戦略立案に携った後、マッキンゼー・アンド・カンパニーではエンゲージメント・マネージャーとして多様な業界のプロジェクトを指揮した。直近にはPalo Alto Networks社でプリンシパル・コンサルタントを務め、日本企業のサイバーセキュリティ強化を支援。東京大学経済学部卒業、米ペンシルベニア大学ウォートン校でMBA(ファイナンス&ビジネス分析)取得。2022年に量子計算時代の安全保障を目指すスタートアップBlocQ, Inc.を共同創業し、ポスト量子時代のサイバーセキュリティ技術開発を牽引している。



白坂成功

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 委員長

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授。東京大学大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻修士課程修了後、三菱電機株式会社にて宇宙開発に従事。技術試験衛星VII型(ETS-VII)、宇宙ステーション補給機(HTV)等の開発に参加。特にHTVの開発では初期設計から初号機ミッション完了まで携わる。途中1年8ヶ月間、欧州の人工衛星開発メーカーに駐在し、欧州宇宙機関(ESA)向けの開発に参加。「このとどろ」(HTV: H-II Transfer Vehicle)開発では多くの賞を受賞。内閣府革新的研究開発推進プログラム(ImPACT)のプログラムマネージャーとしてオンデマンド型小型合成開口レーダ(SAR)衛星を開発。2004年度より慶應義塾大学にてシステムズエンジニアリングの教鞭をとる。



長尾昂

京都フュージョンアリング 共同創業者

文部科学省 早暁プログラム メンター、東京科学大学 Venture Studio Executive director、京都大学イノベーションキャピタル ECG-iCAP CEO(Chief EIR Officer)、東北大学ベンチャーパートナーズ 取締役。2019年に日本で初めての核融合スタートアップ 京都フュージョンアリングを設立し、代表取締役役に就任。累計130億円超の資金調達、120名以上の採用、英・米子会社の設立などを推進。KF社で培った経験によりスタートアップ支援やアントレプレナー教育などにも活動の幅を広げている。京都大学 修士(機械理工学)。夢は、技術で産業を創ること。



吉田和哉

東北大学 大学院工学研究科 航空宇宙工学専攻 教授

東京工業大学助手、マサチューセッツ工科大学客員研究員を経て、1995年より東北大学助教授。2003年より同大学工学研究科 航空宇宙工学専攻 教授。1998年より国際宇宙大学(非常勤)にてグローバルな人材育成にも従事している。工学博士。専門は宇宙ロボット工学、ロボットのダイナミクスと制御、宇宙探査工学、超小型衛星の開発。小惑星探査機「はやぶさ」の開発にも参加し、月惑星探査ロボットの研究開発を幅広く進めている。宇宙スタートアップ関係では、Google Lunar XPRIZE チーム「HAKUTO」最高技術責任者、株式会社ispace 創業メンバー&取締役CTOを経験し、現在はシスルナテクノロジーズ株式会社の創業株主&取締役CTOを務める。

モデレーター



佐藤将史

Beyond Next Ventures株式会社 / 一般社団法人SPACETIDE 理事 兼 COO

2003年より野村総合研究所にて、イノベーション領域を中心に政策立案から企業戦略まで幅広くコンサルティング業務に従事。2019年ispaceに参画、日本初の宇宙スタートアップIPOの後、現職。Beyond Next Venturesにて宇宙領域アドバイザー及びスタートアップエコシステム整備に従事。並行して、一般社団法人SPACETIDEの企画・運営を行う他、宇宙ビジネス振興の各種活動を展開している。東京大学理学部卒(地球惑星物理学)・同大学院理学系研究科修士(地球惑星科学)、カリフォルニア大学ロサンゼルス校公共政策大学院修士(公共政策学修士)。

# 未来に向けて 取り組むべき研究を支える 民間財団の役割

サントリー生命科学財団では、2025年から財団連携による研究者の研究環境改善についての研究会を立ち上げ、議論を重ねてきました。本セッションでは、政府機関とは異なる民間組織としての財団に果たせる役割について、特に研究資金の獲得が難しい一方で大きなインパクトを秘める研究領域の研究者らと共に、民間財団にこそ果たし実行を共に問いながら、その可能性を探ります。

15:45-17:00

DAY 1

Sept. 18



## 宇佐美誠

京都大学 大学院地球環境学・ミュンヘン工科大学 人工知能倫理研究所 教授・客員教授

ハーバード大学哲学部客員研究員の後、東京工業大学大学院社会理工学研究所教授などを経て、現職。博士(法学)。日本公共政策学会会長、法哲学・社会学国際学会連合の元日本支部長。専門は、法哲学・政治哲学。分配的正義論などの原理的研究の他、グローバル正義・世代間正義・気候正義、AI倫理学、存亡リスク研究などの応用的研究も行ってきた。近著に、『AIで変わる法と社会:近未来を深く考えるために』(編者、岩波書店、2020年)、『持続可能な未来のためのガバナンス』(英語、共編者、シュプリンガー社、2023年)など。



## 砂川玄志郎

理化学研究所 生命機能科学研究センター 冬眠生物学研究チーム チームディレクター

京都大学医学部を卒業後、小児科医として大阪赤十字病院や国立成育医療研究センターに勤務し、その後大学院で哺乳類の睡眠制御メカニズム研究に従事して医学博士号を取得。2017年より理化学研究所でマウスを用いた冬眠誘導法の開発研究に取り組み、2022年10月に同研究センター内に新設された冬眠生物学研究チームのチームリーダーに就任した。現役の小児科医でもあり、医療応用を視野にヒトの人工冬眠実現を目指して冬眠の原理解明に挑んでいる。



## 西本正三

公益財団法人サントリー生命科学財団 理事長

サントリー株式会社に入社し、長年にわたり生産技術・研究開発畑を歩み、サントリー食品インターナショナル株式会社(SBF) 常務執行役員 商品開発部長、R&D部長などを歴任。2024年より公益財団法人サントリー生命科学財団の理事長に就任し、生物有機科学分野の最先端研究への助成や若手研究者の育成支援を統括している。



## 藤田淑子

フィランソロピー・アドバイザーズ株式会社 代表取締役

大手金融機関(シティグループ、UBS、クレディ・スイス)で富裕層向け資産運用・商品開発業務に20年以上携わった後、山口県で地域活性化支援や障害者就労支援施設での就労、子ども食堂の運営など社会貢献活動に従事し、NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえの設立と認定NPO取得も経験した。その後、社会変革推進財団(SIIF)に移り、新しいフィランソロピー支援事業の立ち上げや社会的企業への投資支援、インパクト評価や財団の運営に取り組んだ。2023年にフィランソロピー・アドバイザーズ株式会社を共同創業し、企業オーナーや財団の理念に沿った戦略的フィランソロピー活動を支援するサービスを提供している。

## モデレーター



## 西村勇哉

株式会社エッセンス 代表取締役 / NPO法人ミラツク 代表理事

1981年大阪府池田市生まれ。大阪大学大学院にて人間科学の修士を取得。人材開発ベンチャー企業、公益財団法人日本生産性本部を経て、2011年にNPO法人ミラツクを設立し代表に就任。セクターや職種、領域を超えたイノベーションプラットフォームの構築や大手企業の新規事業開発支援、研究開発プロジェクトの立ち上げ支援などに取り組む。2017年から2022年3月まで理化学研究所未来戦略室イノベーションデザイナーを兼務。2021年に株式会社エッセンスを創業し、研究知と社会をつなぐ「Knowledge Tech」事業を展開。大阪大学社会ソリューションイニシアティブ招聘教授も務める。

15:45-17:00

DAY 1

Sept. 18

ディープテック  
イノベーションの源泉に出会う1  
気候変動・エネルギー危機  
時代に求められる  
新たなサイエンス&  
テクノロジーの未来

本セッションの登壇者はQRコードよりご確認ください。  
特設サイトにて公開しています。



今、世の中で求められている領域と、研究機関としての大学での研究成果が重なる接点から、新たなイノベーションの価値をさぐることは企業にとっての喫緊の課題です。本セッションでは、全国の100を超える大学群が連携する大学発スタートアップエコシステムとの連携により、その最前線のプレゼンテーションとその後の小グループディスカッションによる接点づくりを通じて、新たなイノベーションの種が企業につながる機会を創出します。

モデレーター



黒井理恵

株式会社アスノオト取締役/  
特定非営利活動法人ミラツク 理事

北海道名寄市出身・在住。東京で出版社編集者、企業PR・ブランディング会社CSRコンサルタントを経て、2014年にリターン。全国各地でワークショップデザイナー/ファシリテーターとして活動。まちづくり、長期ビジョン策定、チームビルディングなどをテーマに、自治体・企業・NPO・市民に向けた対話の場づくりを数多く手がけている。研究領域では2022~2024年度にArCSI国際政治課題「北極域実践コミュニティ」のファシリテーターを務めた。他、地域を旅する大学「さとのぼ大学」運営会社(株)アスノオト取締役など。

# 企業CVCと サイエンススタートアップの 連携を問う

企業CVCに成し得る長期的な時間軸とサイエンスベースのスタートアップは果たして協働しえるのか。企業と学術の時間軸と文化・目的性の違いをつなぐ架け橋として企業CVCに果たせる役割の可能性について共に問います。それは、知と事業が直接的につながり得るのか、という問いかけに対する新たな回答を模索する取り組みでもあります。

15:45-17:00

DAY 1

Sept. 18



菅原優子

株式会社NTTドコモ・ベンチャーズ  
代表取締役CEO & CCO

1995年NTTドコモ入社。iモードの立ち上げから企画・仕様策定に携わり、その後携帯端末のラインアップ戦略やUIデザイン戦略を担当。2014年より社内の新事業創出プログラムを運営し、イントレプレナー育成を推進。2021年6月にNTTドコモ・ベンチャーズ代表取締役社長に就任し、スタートアップ投資と事業共創をリード。2023年6月からNTTドコモのライフスタイルイノベーション部長、2025年7月よりNTTドコモ・ベンチャーズCEO&CCOに復帰。2013年MITスローンフェローズMBA取得。



藤本宏樹

住友生命保険相互会社 常務執行役員

1988年東京大学経済学部卒業後、住友生命保険相互会社に入社。三重支社での勤務や通商産業省(現・経済産業省)への出向などを経て、2005年に秘書室長、2007年に経営総務室長に就任。2011年に住友生命のブランド戦略立ち上げに携わり、2013年からブランドコミュニケーション部長を務める。2017年には国内最大級の広告賞「ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」においてフィルム部門アカデミーの総務大臣賞/ACCグランプリを受賞。2019年4月より新規ビジネス企画部長(上席執行役員)を務め、現在は常務執行役員として新規事業の企画推進を担っている



田崎有城

N-ARK (ナーク) 代表取締役 /  
株式会社エッセンス取締役

N-ARK (ナーク) 代表。ディープテックスタートアップと並走しながらファイナンス視点も含めた総合的なハンズオン支援を行うクリエイティブファームKANDO代表。リアルテックファンドメンバーとしても多数のテックベンチャーを支援する。実績としてサイボーグベンチャー「MELTIN」では、国内外でのモメンタムづくりに貢献し、シリーズBにおいて20.2億円調達。パーソナルモビリティ「WHILL」MaaS事業CES展示、HRテック「ZENKIGEN」事業コンセプトリードなど。2021年に先端研究者のロングインタビューメディア「esse-sense | エッセンス」共同創業。同年、気候変動に対応する海上建築スタートアップ「N-ARK | ナーク」創業。



松下祥子

株式会社elleThermo 代表取締役CEO

1996年東京大学工学部卒業。2000年東京大学大学院工学系研究科 応用化学専攻 博士後期課程修了。東京大学で藤嶋昭教授の指導のもと自己組織化ナノ粒子構造の作製と応用を研究。2001年、理化学研究所にて國武豊喜教授グループにてポストドク研究員となり、研究対象をフォトニック結晶へと広げた。日本大学講師、助教授を経て、2010年より東京工業大学物質理工学院材料系准教授に就任。半導体増感型熱利用発電の研究に取り組んでいる。



高倉葉太

株式会社イノカ 代表取締役

1994年生まれ。兵庫県出身。東京大学工学部を卒業、同大学院暦本純一研究室で機械学習を用いた楽器の練習支援の研究を行う。2019年4月に株式会社イノカを設立。サンゴ礁をはじめとする海洋生態系を室内空間に再現する「環境移送技術®」を構想し、研究開発を推進。2021年10月より一般財団法人 ロートこどもみらい財団理事に就任。同年、Forbes JAPAN「30 UNDER 30」に選出。

モデレーター



谷本有香

Forbes JAPAN Web編集長・執行役員

Forbes JAPAN 執行役員 Web編集長証券会社勤務、Bloomberg TVにて金融経済アンカーを経て、2004年に米国にてMBAを取得。その後、日経ONBCキャスターとして活躍し、同局初の女性コメンテーターを務める。2016年よりForbes JAPANに参画し、経済ジャーナリストとして数多くの企業トップにインタビューを行う。現在、Forbes JAPAN 執行役員 Web編集長としてメディア運営を牽引するとともに、テレビやラジオなど各種メディアでも経済解説者として活動している。

# 情報の先にある感性

## AI時代に浮上する新たな価値

AIの先に重視されるテーマとして「感性」が掲げられることが度々あります。一方で、感性を価値化するためにはその現象の解明と、再現性やエンジニアリングの探究が求められます。本セッションでは、「感性」を学術と事業の両面から掘り、実際の現在地から未来を問う対話に取り組めます。



石津智大

関西大学 文学部 教授

関西大学文学部教授。2009年に慶應義塾大学大学院社会学研究科心理学専攻で心理学博士号を取得し渡欧。ロンドン大学ユニバーシティ校生命科学部生物科学科リサーチフェロー(2009-2016)、ウィーン大学心理学部リサーチャー(2016-2018)、ロンドン大学ユニバーシティ校生命科学部生物科学科シニアリサーチフェロー(2018-2020)などを経て現職。



大黒達也

東京大学大学院 情報理工学系研究科・次世代知能科学研究センター 准教授

1986年、青森県八戸市生まれ。2016年、東京大学大学院医学系研究科内科学専攻医学博士課程を修了。オックスフォード大学医学部実験心理学部、マックスプランク研究所神経心理学部、ケンブリッジ大学教育神経科学研究所の研究員を経て、2020年4月より現職。音楽や言語がどのように学習されるのかについて、神経科学と計算論的手法を用い、領域横断的に研究。神経生理データから脳の「創造性」をモデル化し、創造性の起源とその発達の過程を探っている。また、それらの研究成果をもとに新たな音楽理論を構築し、現代音楽の制作にも取り組んでいる。著書に「芸術的創造は脳のどこから生まれるか?」「AI時代に「自分の才能を伸ばす」ということ」「音楽する脳 天才たちの創造性と超絶技巧の科学」、監修本に「GOOD VIBRATIONS 最



中西裕子

株式会社資生堂 ブランド価値開発研究所 Shiseido Beauty Park 価値共創室 グループマネージャー / 『fibona』プロジェクトリーダー  
名古屋大学大学院物質理学専攻(化学系)修士課程修了後、資生堂に入社。スキンケア処方開発、化粧品基剤の基礎研究、デザイン思考を取り入れた研究テーマ設定等を経て、現在はブランド価値開発研究所 Shiseido Beauty Park 価値共創室のグループマネージャーとしてR&D戦略・新規研究企画に携わる。資生堂R&Dのオープンイノベーションプログラム『fibona』のプロジェクトリーダーとして、スタートアップや研究機関との共創を推進している。



福本理恵

株式会社SPACE 代表取締役CEO

兵庫県姫路市生まれ。東京大学先端科学技術研究センター交流研究員を経て博士課程に進学するも、体調を機に食の領域へ転じ「種から育てる子ども料理教室」を主宰。2013年より同センターで農と食から学ぶ『Life Seed Labo』を企画。2014年には『異才発掘プロジェクトROCKET』のプロジェクトリーダーとして探究学習のカリキュラムと環境構築を牽引。2020年に株式会社SPACEを創業し、代表取締役CEOとして国・自治体・企業と連携し、個別最適な探究学習の社会実装に取り組む。



羽山康之

九州大学大学院芸術工学研究院ストラテジックデザイン部門助教

九州大学大学院芸術工学研究院助教。ミラノ工科大学大学院デザイン学研究科博士(デザイン学)。ストラテジックデザインを学術的基盤にデザインによる世界創造の方法(Design Narrative Worldmaking)を研究。一橋大学商学部・商学研究科経営学修士コースを経て、デロイト・トーマツ・コンサルティングにて経営コンサルタントとして勤務。デザインによるイノベーションの方法に魅力を感じ、ミラノ工科大学に留学(ストラテジックデザイン)、株式会社AXISにてストラテジックデザイナーとして企業の新事業、製品・サービス開発を支援。デザインと経営の学際的領域で研究とプロジェクトを推進。

モデレーター



谷本有香

Forbes JAPAN Web編集長・執行役員

Forbes JAPAN 執行役員 Web編集長証券会社勤務、Bloomberg TVにて金融経済アンカーを経て、2004年に米国にてMBAを取得。その後、日経ONBCキャスターとして活躍し、同局初の女性コメンテーターを務める。2016年よりForbes JAPANに参画し、経済ジャーナリストとして数多くの企業トップにインタビューを行う。現在、Forbes JAPAN 執行役員 Web編集長としてメディア運営を牽引するとともに、テレビやラジオなど各種メディアでも経済解説者として活動している。

# 未来創造を実現する リーダーシップの育て方



米倉誠一郎

一橋大学 名誉教授

1953年東京都生まれ。1981年一橋大学大学院社会学研究科修士課程修了。1990年ハーバード大学大学院でPh.D. (歴史学) 取得。1997年より一橋大学イノベーション研究センター教授を務め、1999～2001年および2008～2012年に同センター長を歴任。2012年には南アフリカ・プレトリア大学GIBS日本研究センター所長 (Academic Director) に就任 (兼務)。専門は経営史で、イノベーションを軸とした経営戦略と組織の史的研究に取り組む。2017年より法政大学大学院教授。現在はソーシャル・イノベーション・スクール学長や『一橋ビジネスレビュー』編集委員長も務め、創造的リーダーシップ人材の育成に尽力している。

イノベーションを起こすリーダー、社会に変革を起こすリーダーに求められる行為は何か。長年経営学の観点から、イノベーションとリーダーシップの理解と教授に取り組んできた米倉誠一郎さんをお迎えし、未来創造を実現するリーダーシップについて徹底講義と議論の時間を設けます。

モデレーター



三浦英雄

ウィルソン・ラーニング ワールドワイド株式会社 執行役員 事業開発室長 (兼) イノベーション・イネーブルメント事業統括 / 一般社団法人越境リーダーシップ 代表理事

2012年に社会的な価値創造に関する共創型実践研究「越境リーダーシップ」プロジェクトを産学連携で設立。個人の想いを起点に、既存の枠組みを“越境”し、異分野との共創関係から社会的価値創造を実現するリーダーシップ、イネーブルメント、組織文化の実践研究をアカデミア、実践者、クリエイターと共に取り組む。イノベーション・イネーブルメント事業を創設し、個人の想いを起点とした社会的価値創造の挑戦が生まれるエコシステムの実装を多数手がける。

17:30-18:45

DAY 1

Sept. 18

# 100年先の未来を覆す インパクト&サイエンス

100年後に世界を揺るがす変化の種が今起こっているとしたら、それはどのようなものだろう。人工冬眠、核融合、若返り、科学の自動化。それら最前線からさらに先に行く未踏のエリアに取り組む研究者をお招きし、未来の種を今この場で知るための特別セッションを行います。



砂川玄志郎

理化学研究所 生命機能科学研究センター  
冬眠生物学研究チーム チームディレクター

京都大学医学部を卒業後、小児科医として大阪赤十字病院や国立成育医療研究センターに勤務し、その後大学院で哺乳類の睡眠制御メカニズム研究に従事して医学博士号を取得。2017年より理化学研究所でマウスを用いた冬眠誘導法の開発研究に取り組み、2022年10月に同研究センター内に新設された冬眠生物学研究チームのチームリーダーに就任した。現役の小児科医でもあり、医療応用を視野にヒトの人工冬眠実現を目指して冬眠の原理解明に挑んでいる。



武田秀太郎

慶應義塾大学KMD研究所フュージョン  
インダストリー研究センター センター長

1989年三重県生まれ。京都大学工学部卒業。2018年京都大学大学院博士課程を飛び級修了し博士(工ネルギー科学)取得。2019年京都フュージョンアリング株式会社を共同創業。IAEA勤務、京都大学特定准教授、九州大学准教授を経て、2025年より慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科准教授に着任。専門はサステナビリティ学、核融合工学。



鈴木健吾

株式会社ユーグレナ共同創業者  
兼エグゼクティブフェロー

東北大学特任教授。農学・医学博士。東京大学農学部生物システム工学専修卒。2005年8月株式会社ユーグレナ創業、取締役研究開発部長就任。同年12月に、世界でも初となるユーグレナの食用屋外大量培養に成功。2006年東京大学大学院農学生命科学研究科修士課程修了。2016年東京大学大学院農学博士学位取得。2019年北里大学大学院医学博士学位取得。ユーグレナの利活用およびその他藻類に関する研究に携わったかわら、ユーグレナ由来のバイオ燃料製造開発に向けた研究に挑む。



牛久祥孝

株式会社NexaScience 代表取締役 / オムロン サイニックエックス株式会社 リサーチバイスプレジデント

東京大学大学院情報理工学系研究科博士課程修了。NTT研究所研究員、東京大学講師などを経て2018年よりオムロン サイニックエックス株式会社の立ち上げに参画、2024年よりリサーチバイスプレジデント。また2024年より株式会社NexaScienceを創業。画像やテキストを用いた生成AIや、AI for Scienceなどの研究に従事。2021年ヤマト科学賞受賞、2023年NISTEP「ナイスステップな研究者」選出。

モデレーター



西村勇哉

株式会社エッセンス 代表取締役 /  
NPO法人ミラツク 代表理事

1981年大阪府池田市生まれ。大阪大学大学院にて人間科学の修士を取得。人材開発ベンチャー企業、公益財団法人日本生産性本部を経て、2011年にNPO法人ミラツクを設立し代表に就任。セクターや職種、領域を超えたイノベーションプラットフォームの構築や大手企業の新規事業開発支援、研究開発プロジェクトの立ち上げ支援などに取り組む。2017年から2022年3月まで理化学研究所未来戦略室イノベーションデザイナーを兼務。2021年に株式会社エッセンスを創業し、研究知と社会をつなぐ「Knowledge Tech」事業を展開。大阪大学社会ソリューションイニシアティブ招聘教授も務める。

## ディープテック

イノベーションの源泉に出会う 2

あらゆる産業にAIが  
組み込まれる先に生きる  
新たなサイエンス&  
テクノロジーの未来

本セッションの登壇者はQRコードよりご確認ください。  
特設サイトにて公開しています。



今、世の中で求められている領域と、研究機関としての大学での研究成果が重なる接点から、新たなイノベーションの価値をさぐることは企業にとっての喫緊の課題です。本セッションでは、全国の100を超える大学群が連携する大学発スタートアップエコシステムとの連携により、その最前線のプレゼンテーションとその後の小グループディスカッションによる接点づくりを通じて、新たなイノベーションの種が企業につながる機会を創出します。

モデレーター



黒井理恵

株式会社アスノオト取締役/  
特定非営利活動法人ミラツク 理事

北海道名寄市出身・在住。東京で出版社編集者、企業PR・ブランディング会社CSRコンサルタントを経て、2014年にリターン。全国各地でワークショップデザイナー/ファシリテーターとして活動。まちづくり、長期ビジョン策定、チームビルディングなどをテーマに、自治体・企業・NPO・市民に向けた対話の場づくりを数多く手がけている。研究領域では2022~2024年度にArCSII国際政治課題「北極域実践コミュニティ」のファシリテーターを務めた。他、地域を旅する大学「さとのぼ大学」運営会社(株)アスノオト取締役など。

# 科学がイノベーションと 出会う時 惑星科学編

2025年4月、ALE社と東京大学は、小惑星の表面に小さな衝突を複数回起こす「低エネルギーマルチインパクト実験」の共同研究を開始しました。これは、小惑星が地球に衝突することを避けるための新たな新規事業でもあります。惑星科学という基礎研究が、事業と出会い、新たなイノベーションを起こしていくまでどのようなプロセスがなされたのか。本セッションは昨年のフォーラムを起点にコラボレーションの実現までを一気に進むことになった3名の方にお越しいただき、そのリアルな舞台裏にうちて伺っていきます。



岡島礼奈

株式会社ALE 代表取締役CEO

1979年鳥取県生まれ。東京大学理学部天文学科卒業、2008年同大学院理学系研究科博士課程修了(博士(理学)取得)。在学中に学生ベンチャー企業を立ち上げ、博士課程修了後はゴールドマン・サックス証券に勤務。2009年から人工流れ星の研究を開始し、2011年に宇宙エンターテインメント企業の株式会社ALEを創業、代表取締役CEOに就任。人工衛星から粒子を放出して人工の流れ星を降らせるプロジェクトを推進するなど、科学を社会につなぐ宇宙を文化圏にすることを目指している



橘省吾

東京大学 大学院理学系研究科  
宇宙惑星科学機構 教授

1973年、石川県生まれ。1997年に大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻博士課程を修了し、東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻助教、北海道大学理学院自然史科学専攻准教授などを経て、現職。国際隕石学会 Nier Prizeやゴールドジュシット会議 Gast Lectureship、日本惑星科学会の最優秀研究者賞など国内外で多数受賞。著書に「星くずたちの記憶—銀河から太陽系への物語」(岩波科学ライブラリー)、「地球・惑星・生命」(共編)(東京大学出版会)など。



中村貴裕

株式会社Midtown 代表取締役CEO

高校生の頃に読んだ科学雑誌Newtonをきっかけに宇宙に興味を抱く。九州大学、東京大学大学院で太陽系起源の研究をした後、新卒でアクセンチュア(株)に入社し小売や製造業のSCM領域のコンサルティングに従事。その後(株)リクルードに転じ、新規事業開発室にて自ら企画・立案した事業の立ち上げを複数経験。2015年より(株)ispacにて、取締役COOとしてビジネス全般を統括。事業開発、政府リレーション、組織開発やHAKUTO、HAKUTO-Rの立ち上げと推進を行い、2017年に日本では過去最高額となる103.5億円のseriesA資金調達を実施。社員2名から社員200名規模へのスケールアップを経験。2022年7月に宇宙×気候変動×生物多様性をキーワードに地球規模の社会課題解決を目指して、株式会社Midtownを創業。複数のスタートアップ企業のCXOやアドバイザー、月面産業ビジョン協議会の座長代理を兼務。

モデレーター



隅屋輝佳

デザインリサーチャー

東京都東村山出身。海外青年協力隊、NPO法人でのオープンイノベーション推進業務などに従事。慶應大学SDMIにて、マルチステークホルダーによるルールメイキングについて研究し修士号取得。その後、自身の団体や世界経済フォーラム第四次産業革命日本センターにて、ひらかれた自律分散的なガバナンスのあり方として、アジャイルガバナンスを推進する。文化人類学者エスコバルの多元世界の概念と巡りあってから、ケアやマルチスピーシーズをキーワードに、自然との新たな関わり方、多元的なガバナンスのあり方を模索する。

# PROGRAM

|             |  |            |
|-------------|--|------------|
| 10:00-10:15 | イントロダクション  | 4F (A) (B) |
| 10:15-10:45 | 特別対談<br>未来創造とつながる研究知と経済との接続 未来への道程を実現する知の共創<br>西村勇哉   三山功   篠田真貴子                      | 4F (A) (B) |
| 10:50-11:40 | 基調講演<br>未来洞察SINIC理論と研究知の連携 自然社会に向けた道程と情報科学の発展<br>諏訪正樹   森本典繁   西村勇哉                    | 4F (A) (B) |
| 11:45-12:50 | 特別パネルディスカッション<br>未来洞察と将来リスク AI時代の先にある新たな危機と機会<br>諏訪正樹   森本典繁   宇佐美誠   美馬のゆり   西村勇哉     | 4F (A) (B) |
| 13:00-14:00 | LUNCH  |            |
| 13:15-13:45 | Break out Meeting  |            |
| 13:15-14:00 | 特別サイドイベント<br>書とリベラルアーツ<br>堀内勉   篠田真貴子   仲野徹   安田洋祐                                     | 4F (C)     |
| 14:00-15:15 | Panel & Dialog<br>生成AI時代に問い直すデータの価値 研究から社会実装への越境戦略<br>金井良太   鹿内学   丸山宏   黒井理恵          | 4F (A)     |
|             | Future Session<br>生命の時計と若返りの科学の実現<br>堀江重郎   鈴木健吾   西村勇哉                                | 4F (B)     |
|             | Panel & Dialog sponsored by PwC<br>研究の創造の力を取り込む経営<br>立石郁雄   占部まり   大室悦賀   草野秀樹   篠田真貴子 | 4F (C)     |
|             | 1 on 1 Session × 20<br>Deep Sync by STORIUM<br>スタートアップ×事業会社・CVCによるクローズドな1 on 1セッション    | 5F (D)     |
|             | Dialog Table<br>ARTと感性の力を活かした未来創造<br>松永エリック・匡史   中島隆太   中野民夫   井上英之   隅屋輝佳             | 5F (E)     |
| 15:20-15:40 | Break out Meeting  |            |

# DAY 2 Sept. 19

|             |  |           |
|-------------|--|-----------|
| 15:45-17:00 | Panel & Dialog<br>未来の経済と公共を問う哲学<br>高橋徹   宇佐美誠   堂目卓生   占部まり   西村勇哉                             | 4F (A)    |
|             | Future Session<br>気候変動と変動する気候帯への適応<br>小野邦彦   太田博樹   渡邊剛   山本浩司   青木志保子                         | 4F (B)    |
|             | esse-sense Session<br>研究者と直接繋がれる未来 現代社会におけるパトロンの再発明<br>仲隆介   石津智大   大黒達也   小野悠   久保田しおん   安田洋祐 | 4F (C)    |
|             | 1 on 1 Session × 20<br>Deep Sync by STORIUM<br>スタートアップ×事業会社・CVCによるクローズドな1 on 1セッション            | 5F (D)    |
|             | Dialog Table<br>循環するブルーエコノミーと地域経済の未来<br>光斎翔貴   征矢野清   笈祐介   谷本有香                               | 5F (E)    |
|             | 特別レクチャー<br>生成AIの歴史、発展、そして未来へ<br>ジャド・タリフィ   | 4F (会議室A) |
| 17:05-17:25 | Break out Meeting  |           |
| 17:30-18:45 | Lecture& Dialog<br>未来学とSINIC 未来洞察から見据える次世代社会<br>中間真一   谷本有香                                    | 4F (A)    |
|             | Future Session<br>未来の兆し「場所」に根ざす価値創造<br>西廣淳   成瀬久美   齋藤暖生   西村勇哉                                | 4F (B)    |
|             | Special Session<br>100年先のための資金を科学へ<br>北真理子   橋本麻里   小野悠   小山有沙   占部まり                          | 4F (C)    |
|             | 1 on 1 Session × 20<br>Deep Sync by STORIUM<br>スタートアップ×事業会社・CVCによるクローズドな1 on 1セッション            | 5F (D)    |
|             | Dialog Table<br>研究者と企業の出会いの新たな姿をデザインする<br>中西裕子   中村雅紀   馬場良子   中村恵莉香   大久保知美   宝槻圭美            | 5F (E)    |
| 19:00-20:30 | Party  |           |

# 未来創造とつながる研究知と 経済との接続

## 未来への道程を実現する知の共創

未来と研究。この近そうで遠くも感じる2つのワードは、構想と実行という切り口で見ると密接な関係が浮かび上がります。未踏・未知を切り開く研究から生まれる構想としての未来、そしてまだ実現していないものを実現する道を探る探究としての研究。本セッションでは、二つの軸が両輪となって私たちの未来への道程を描く、そうしたイノベーションの源泉となるプロセスを共有していきます。



西村 勇哉

株式会社エッセンス 代表取締役 /  
NPO法人ミラツク 代表理事

1981年大阪府池田市生まれ。大阪大学大学院にて人間科学の修士を取得。人材開発ベンチャー企業、公益財団法人日本生産性本部を経て、2011年にNPO法人ミラツクを設立し代表に就任。セクターや職種、領域を超えたイノベーションプラットフォームの構築や大手企業の新規事業開発支援、研究開発プロジェクトの立ち上げ支援などに取り組む。2017年から2022年3月まで理化学研究所未来戦略室イノベーションデザイナーを兼務。2021年に株式会社エッセンスを創業し、研究知と社会をつなぐ「Knowledge Tech」事業を展開。大阪大学社会ソリューションイニシアティブ招聘教授も務める。



三山 功

PwC Future Design Lab 執行役員

テック系スタートアップ企業や外資系コンサルティング会社を経てPwCコンサルティングに参画。未来洞察の手法とデザイン思考を活用し、企業の新規事業や長期ビジョン創造を支援。Speculative Future Designを推進し、国内外でバックキャスト型の価値共創プログラムを展開。日印連携のソーシャルイノベーションにも関与している。

モデレーター



篠田 真貴子

エール株式会社 取締役 /  
株式会社エッセンス 創業メンバー

エール株式会社取締役。社外人材によるオンライン1on1を通じて、企業の組織改革を支援している。2020年3月のエール参画以前は、日本長期信用銀行、マッキンゼー、ノバルティス、ネスレを経て、2008～18年ほぼ日取締役CFO。慶應義塾大学経済学部卒、米ペンシルバニア大ウォートン校MBA、ジョンズ・ホプキンス大国際関係論修士。人と組織の関係や女性活躍に関心を寄せ続けている。『LISTEN——知性豊かで 創造力がある人になれる』監訳

# 未来洞察SINIC理論と 研究知の連携 自然社会に向けた道程と情報科学の発展

オムロン創業者の立石一真さんは1970年に開かれた国際未来学会にて2033年までの未来の道程を示す「SINIC理論」を発表しました。あれから55年が経ち、SINICは半世紀に渡る時の試練に耐えながら、2033年までの最後の10年を進んでいます。本セッションでは、オムロンの未来研究の実装に取り組む諏訪正樹さんと、日本IBM副社長で情報処理学会会長を務める森本典繁さんをお招きし、情報科学を基盤とした今後10年の未来ビジョンとそのための企業活動としての実行をお話しいたします。

10:50-11:40

DAY 2

Sept. 19



諏訪正樹

オムロン株式会社 執行役員 技術・知財本部  
本部長 兼 オムロン サイニックエクス  
株式会社 代表取締役社長

1968年、京都府生まれ。1997年、立命館大学理工学研究科博士後期課程修了後、オムロン株式会社入社。信号処理、機械学習のアルゴリズム、3D画像計測原理、計測アルゴリズムの研究開発に従事。2018年2月、オムロンサイニックエクス株式会社代表取締役役に就任。奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科、九州工業大学生命工学研究科客員教授。クラシックギター、サッカーなど多趣味。長く京都で生活してきたが、新会社立ち上げにより東京に転勤。東京に来て良かったのは「ライブやコンサートがとても多い」こと。忙しい中で時間を見つけては、音楽イベントに足を運ぶ。



森本典繁

日本アイ・ピー・エム株式会社  
取締役副社長執行役員 最高技術責任者

1987年日本IBM入社。大型ホストコンピュータやPC用ディスプレイ開発に従事後、MIT留学を経てIBM東京基礎研究所に所属。音声・画像・モバイル技術の研究を牽引。2009年東京基礎研究所長、2015年IBMアジア太平洋地域CTO、2017年執行役員研究開発担当を歴任。2020年より日本IBM CTO、2021年より常務執行役員。2023年から情報処理学会会長。専門はAI・量子計算など。



西村勇哉

株式会社エッセンス 代表取締役/  
NPO法人ミラツク 代表理事

1981年大阪府池田市生まれ。大阪大学大学院にて人間科学の修士を取得。人材開発ベンチャー企業、公益財団法人日本生産性本部を経て、2011年にNPO法人ミラツクを設立し代表に就任。セクターや職種、領域を超えたイノベーションプラットフォームの構築や大手企業の新規事業開発支援、研究開発プロジェクトの立ち上げ支援などに取り組む。2017年から2022年3月まで理化学研究所未来戦略室イノベーションデザイナーを兼務。2021年に株式会社エッセンスを創業し、研究知と社会をつなぐ「Knowledge Tech」事業を展開。大阪大学社会ソリューションイニシアティブ招聘教授も務める。

# 未来洞察と将来リスク

## AI時代の先にある新たな危機と機会

情報科学の先にある未来を人々にとってより良いものにするためには、オックスフォード大学にある人類優先事項研究所 (Global Priorities Institute) では、人類の絶滅リスクを算出し、その一位にAIの取り扱い失敗を2070年までに10%の絶滅リスクとして掲げました。力のあるテクノロジーにはそれだけ大きな副作用としての脅威が同時に内包されています。本セッションでは、グローバルコミュニティと共にリスク研究に取り組む京都大学の宇佐美誠さん、AI倫理の研究・普及・発展に取り組むはこだて未来大学の美馬のゆりさんをお招きし、今世の中に求められる取り組みについて共に描き、もう一つのバックキャストを描くことに取り組みます。

11:45-12:50

DAY 2

Sept. 19



### 諏訪正樹

オムロン株式会社 執行役員 技術・知財本部  
本部長 兼 オムロン サイニックエックス株  
式会社 代表取締役社長

1968年、京都府生まれ。1997年、立命館大学理工学研究科博士後期課程修了後、オムロン株式会社入社。信号処理、機械学習のアルゴリズム、3D画像計測原理、計測アルゴリズムの研究開発に従事。2018年2月、オムロンサイニックエックス株式会社代表取締役就任。奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科、九州工業大学生命工学研究科客員教授。クラシックギター、サッカーなど多趣味。長く京都で生活してきたが、新会社立ち上げにより東京に転勤。東京に来て良かったのは「ライブやコンサートがとても多い」こと。忙しい中で時間を見つけては、音楽イベントに足を運ぶ。



### 森本典繁

日本アイ・ピー・エム株式会社  
取締役副社長執行役員 最高技術責任者

1987年 慶應義塾大学理工学部電気工学科卒業。同年日本アイ・ピー・エム株式会社入社後、メインフレームやPC用のディスプレイの開発を担当。1995年、米国マサチューセッツ工科大学への留学、MIT Media Labでの研究員を経てIBM 東京基礎研究所に入社。2006年に米国IBMワトソン研究所赴任、2008年グローバル研究戦略担当に就任し、世界の10以上の地域で新規基礎研究所設置の為に評価や計画を立案。2009年に IBM 東京基礎研究所所長に就任。2015年に IBM Asia Pacific に転出し域内 10 か国を統括するChief Technology Officerを担当。2017年に日本に帰国し、執行役員 研究開発担当に就任。2020年に最高技術責任者を兼任。2021年常務執行役員、2023年副社長、2024年より取締役就任。2025年7月より現職。  
前情報処理学会会長、IT 連盟理事、SMBC グループ・テクノロジー・アドバイザー、至善館大学特任教授、経済産業省半導体・デジタル戦略検討会議メンバー、等。



### 宇佐美誠

京都大学 大学院地球環境学堂・ミュンヘン  
工科大学 人工知能倫理研究所 教授・客員  
教授

ハーバード大学哲学部客員研究員の後、東京工業大学大学院社会理工学研究科教授などを経て、現職。博士(法学)。日本公共政策学会会長、法哲学・社会哲学国際学会連合の元日本支部長。専門は、法哲学・政治哲学。分配的正義論などの原理的研究の他、グローバル正義、世代間正義・気候正義、AI倫理学、存亡リスク研究などの応用的研究も行ってきた。近著に、『AIで変わる法と社会:近未来を深く考えるために』(編著、岩波書店、2020年)、『持続可能な未来のためのガバナンス』(英語、共編著、シュプリンガー社、2023年)など。



### 美馬のゆり

公立はこだて未来大学システム情報科学部  
教授

電気通信大学、Harvard大学大学院、東京大学大学院で学び博士(学術)。2000年より公立はこだて未来大学教授。日本科学未来館副館長を経て、MITやUC Berkeleyで客員研究員を務め、学際的視点から教育とAIを探究。AIに関する著作でテレコム国際研究賞を受賞。函館で地域科学教育を推進し文部科学大臣表彰を受賞。日本学術会議第26期会員。科学教育格差是正のNPOを立ち上げ、AIと教育の融合にも取り組んでいる。



### 西村勇哉

株式会社エッセンス 代表取締役/  
NPO法人ミラツク 代表理事

1981年大阪府池田市生まれ。大阪大学大学院にて人間科学の修士を取得。人材開発ベンチャー企業、公益財団法人日本生産性本部を経て、2011年にNPO法人ミラツクを設立し代表に就任。セクターや職種、領域を超えたイノベーションプラットフォームの構築や大手企業の新規事業開発支援、研究開発プロジェクトの立ち上げ支援などに取り組む。2017年から2022年3月まで理化学研究所未来戦略室イノベーションデザイナーを兼務。2021年に株式会社エッセンスを創業し、研究知と社会をつなぐ「Knowledge Tech」事業を展開。大阪大学社会ソリューションイニシアティブ招聘教授も務める。

# 書とリベラルアーツ



堀内勉

多摩大学大学院 経営情報学研究所 教授 / 多摩大学社会的投資研究所 所長、100年企業戦略研究所 所長

東京大学法学部卒業後、ハーバード大学ロースクール修士課程修了。日本興業銀行(現みずほ銀行)、興銀証券、ゴールドマン・サックス証券を経て、2005年に森ビル・インベストメントマネジメント社長に就任。2007～2015年に森ビルの取締役専務執行役員兼CFOとして六本木ヒルズを含む財務戦略を統括。現在は大学教員として教育に携わる他、アートマネジメント、社会的投資、資本主義研究など多方面で活動。著書に『読書大全 世界のビジネスリーダーが読んでいる経済・哲学・歴史・科学 200冊』『ファイナンスの哲学』『資本主義はどこに向かうのか』など多数



篠田真貴子

エール株式会社 取締役

1968年東京都生まれ。1991年慶應義塾大学経済学部卒業後、日本長期信用銀行入行。1995年留学を経て、ペンシルバニア大学ウオートン校でMBA取得、ジョンズ・ホプキンス大学で国際関係論修士取得。帰国後、マッキンゼー・アンド・カンパニー、ノバルティスファーマ、ネスレ日本を経験し、2008年12月から2018年11月まで「ほぼ日」取締役CFOを務める。その後、約1年の「ジョブレス」期間を経て、2020年3月よりエール株式会社取締役に就任し、オンライン「on1」サービス「YeLL」を通じて組織改革を支援。監訳に『ALLIANCE アライアンス——人と企業が信頼で結ばれる新しい雇用』など



仲野徹

大阪大学名誉教授(元 大阪大学大学院・生命機能研究科 / 医学系研究科 教授)

1957年大阪市旭区生まれ。大阪大学医学部医学科卒業後、内科医として勤務。その後ドイツ留学、京都大学医学部講師を経て、大阪大学大学院・生命機能研究科および医学系研究科教授に就任。専門は細胞生物学。1995年以降は基礎医学研究に従事し、2022年に定年退職。以後は隠居生活を送りつつ、書評サイト HONZ のレビュー、読売新聞の読書委員として活躍。著書に『エビジェネティクス』『こわいもの知らずの病理学講義』『考える、書く、伝える 生きぬくための科学的思考法』など多数 左右社 SAYUSHAHONZみんなのミシマガジン。

モデレーター



安田洋祐

大阪大学 大学院経済学研究科 教授

1980年生まれ。2007年プリンストン大学で経済学 Ph.D.取得。政策研究大学院大学助教授、大阪大学准教授を経て2022年7月より大阪大学教授。専門はゲーム理論とマーケットデザイン。オークションやマッチングなど市場制度の設計に関する研究を行い、2020年に株式会社エコノミクスデザインを共同創業。テレビや著書を通じて経済学の普及にも努め、ダイバーシティやサステナビリティに関する発信・提言も行つ。

書籍の中にある知をどのようにして繋いでいくか。『読書大全 世界のビジネスリーダーが読んでいる経済・哲学・歴史・科学 200冊』の著者である堀内勉さんとその仲間たちが新たに立ち上げる書評サイト「Hon Zuki !!」のキックオフイベントに先立って、主要メンバーによる特別セッションを行います。

関連イベント

新書評サイト「Hon Zuki!!」始動! お披露目イベント

時間 | 9月19日 19:00- 場所 | 5F イベントスペース

参加費 | 本イベントは同時開催の別イベントになります。esse-sense Future Forum参加者には特別に参加割引を設定してもらいました。ご興味のある方は、下記より参加登録をお願いいたします(割引コードは必要なく、直接右記QRコードから登録ください)。



# 生命の時計と 若返りの科学の実現

エピジェネティック年齢という概念が確立されたことで、年齢は時間に伴う経過だけでなく、DNAレベルのミクロな科学変化の積み重ねとして新たな評価軸を持って理解をするようになりました。若返りの研究は、2025年に公募された10億円賞金レースX PRIZEでも扱われ、日本からは6チームがファイナリストに残る快挙が成し遂げられました。本セッションでは、ファイナリストの1人である順天堂大学の堀江重郎さんにお越しいただき、若返り研究の最前線について共有し共に議論を行っていきます。

14:00-15:15

DAY 2

Sept. 19



堀江重郎

順天堂大学大学院医学研究科  
泌尿器外科学 教授

1960年東京都生まれ。1985年東京大学医学部卒業。1993年医学博士(東京大学)取得。日米両国の医師免許を取得し、国立がんセンター中央病院、杏林大学医学部講師等を経て、2003年帝京大学医学部泌尿器科学教室主任教授に就任。2012年より順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学教授。前立腺・腎臓・膀胱へのロボット支援手術で国内トップクラスの執刀経験を有し、機能温存を重視した低侵襲手術の普及に貢献している。科学的アプローチによるアンチエイジングにも造詣が深く、日本抗加齢医学会理事長、日本Men's Health医学会理事長なども務める。



鈴木健吾

株式会社ユーグレナ共同創業者  
兼エグゼクティブフェロー

東北大学特任教授。農学・医学博士。東京大学農学部生物システム工学専修卒。2005年8月株式会社ユーグレナ創業、取締役研究開発部長就任。同年12月に、世界でも初となるユーグレナの食用屋外大量培養に成功。2006年東京大学大学院農学生命科学研究所修士課程修了。2016年東京大学大学院農学博士学位取得。2019年北里大学大学院医学博士学位取得。ユーグレナの活用およびその他藻類に関する研究に携わったかわら、ユーグレナ由来のバイオ燃料製造開発に向けた研究に挑む。

モデレーター



西村勇哉

株式会社エッセンス 代表取締役/  
NPO法人ミラツク 代表理事

1981年大阪府池田市生まれ。大阪大学大学院にて人間科学の修士を取得。人材開発ベンチャー企業、公益財団法人日本生産性本部を経て、2011年にNPO法人ミラツクを設立し代表に就任。セクターや職種、領域を超えたイノベーションプラットフォームの構築や大手企業の新規事業開発支援、研究開発プロジェクトの立ち上げ支援などに取り組む。2017年から2022年3月まで理化学研究所未来戦略室イノベーションデザイナーを兼務。2021年に株式会社エッセンスを創業し、研究知と社会をつなぐ「Knowledge Tech」事業を展開。大阪大学社会ソリューションイニシアティブ招聘教授も務める。

# 生成AI時代に問い直す データの価値 研究から社会実装への越境戦略

研究の世界の最前線から社会に広げる最前線へ。二つの世界の最前線がつながることで起こるビジョンと実行はこれまでにない未来への道程を切り開きます。本セッションでは、研究者としてのキャリアをもちながら、事業活動に参画する3名にお越しいただき、その越境によって生まれる価値創造について詳細に伺うことで、両輪の融合の意味を見出していきます。



金井良太

株式会社アラヤ 代表取締役

1977年東京都生まれ。2000年京都大学理学部卒業。2005年オランダ・ユトレヒト大学でPh.D.取得(実験心理学)。カリフォルニア工科大学、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンでポストドク研究員として視覚と時間感覚の研究に従事。2012年英国サセックス大学サッカー意識科学センター准教授に就任。2013年株式会社アラヤを創業し、2015年より代表取締役CEO。神経科学と情報理論の融合によって脳に意識が生まれる原理や人工意識の実装を研究すると同時に、産業界でAIと脳科学の実用化に取り組んでいる。著書に「AIに意識は生まれるか」(2023年)などがある。



鹿内学

株式会社シンギュレイト 代表取締役

1980年生まれ。奈良先端科学技術大学院大学にて博士(理学)取得。京都大学などで教員・研究員として認知神経科学の基礎研究に従事。2015年に人材系企業に入社し、ビジネスサイドに軸足を移す。在職中の2016年に株式会社シンギュレイトを設立し、ピープルアナリティクスの先駆者として組織開発支援に取り組む。現在は科学的手法とデータによる組織開発スタートアップとして同社を経営し、企業文化の変革や1on1の普及を支援している。



丸山宏

丸山宏 株式会社Preferred Networks シニアアドバイザー

1958年生まれ。1983年東京工業大学大学院理工学研究科修士課程修了。同年日本アイ・ビー・エム株式会社入社。人工知能や自然言語処理の研究開発に携わり、東京基礎研究所所長などを歴任。2009年統計数理研究所教授・副所長に就任。2016年より株式会社Preferred Networksに参画し、PFNフェロー等を経て現職。東京大学上席研究員(人工工学研究センター)なども兼任。

モデレーター



黒井理恵

株式会社アスノオト取締役/  
特定非営利活動法人ミラツク 理事

北海道名寄市出身・在住。東京で出版社編集者、企業PR・ブランディング会社CSRコンサルタントを経て、2014年にUターン。全国各地でワークショップデザイナー/ファシリテーターとして活動。まちづくり、長期ビジョン策定、チームビルディングなどをテーマに、自治体・企業・NPO・市民に向けた対話の場づくりを数多く手がけている。研究領域では2022~2024年度にArCSII国際政治課題「北極域実践コミュニティ」のファシリテーターを務めた。他、地域を旅する大学「さとのぼ大学」運営会社(株)アスノオト取締役など。

# 研究の創造の力を 取り込む経営

研究という行為が未踏・未知を切り開くための創造的な行為なのであれば、その力は企業経営にとっても有益なものではないだろうか。こうした、研究の成果ではなくプロセスがもつ力への注目は、新たな経営を支える軸としての可能性を秘めています。本セッションでは、研究成果とは異なる研究プロセスの価値化に向けた検討を共に行い、日本企業の飛躍と再生の道を探ります。

14:00-15:15

DAY 2

Sept. 19

## Speakers



### 立石郁雄

ヒューマンリソース研究所  
代表取締役社長

1967年生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業。1990年株式会社三菱銀行に入行。1996年オムロン株式会社に入社し、産業機器事業部長、社長付参与などを歴任。2023年よりオムロン株式会社のシンクタンクである株式会社ヒューマンリソース研究所代表取締役社長に就任。「SINIC理論」に基づいて社会と科学技術の未来予測を発信し、次代を見据えた経営ビジョンの提言や人材育成に取り組んでいる。



### 大室悦賀

長野県立大学 教授

1961年東京都生まれ。一橋大学大学院商学研究科博士後期課程満期退学。1985年東京都府中市役所に入職し行政に勤務。2007年京都産業大学経営学部専任講師となり、准教授を経て2015年教授に就任。同年京都市ソーシャルイノベーション研究所(SILK)所長に就任。2018年長野県立大学グローバルマネジメント学部教授・大学院ソーシャルイノベーション研究科長に就任(現職)。ソーシャル・イノベーションを専門とし、全国の自治体や企業・NPOの新事業開発や地域課題解決を支援するほか、著書「ソーシャル・イノベーション」など多数の著作を通じて社会変革の理論と実践を提唱している。



### 占部まり

宇沢国際学館 代表取締役/医師

1965年米国シカゴ生まれ。1990年東京慈恵会医科大学卒業。内科医。1992~94年米国メイヨークリニック研究員(ポストドクトラルフェロー)。現在、地域医療の現場で診療に従事するかたわら、父・宇沢弘文が提唱した「社会的共通資本」の理念の継承と普及に努める。2014年父の逝去に伴い株式会社宇沢国際学館取締役に就任。講演録集『人間の経済』(宇沢弘文著、新潮新書)の編集を手掛けるなど、その思想を伝える活動を展開。2017年に日本メント・モリ協会を設立し代表理事に就任。現在、宇沢国際学館代表取締役。



### 草野秀樹

PwCコンサルティング合同会社  
シニアマネージャー

マーケティング支援会社、外資系コンサルティング会社を経て、2016年より現職。公共セクター領域のシニアマネージャーとして、地方自治体の行政DXや産業振興、新規事業創出支援に従事。プロダクトデザインから社会・公共デザインまで幅広い学術知見を活かし、地域における課題解決の戦略立案やデジタル活用、協働のファシリテーションを推進している。また複数の大学で非常勤講師を務め、デザイン×ビジネス×アントレプレナーシップの視点から地域イノベーション人材の育成や産官学連携にも取り組む。

## モデレーター



### 篠田真貴子

エール株式会社 取締役/  
株式会社エッセンス 創業メンバー

エール株式会社取締役。社外人材によるオンライン1on1を通じて、企業の組織改革を支援している。2020年3月のエール参画以前は、日本長期信用銀行、マッキンゼー、ノバルティス、ネスレを経て、2008~18年ほぼ毎日取締役CFO。慶應義塾大学経済学部卒、米ペンシルバニア大ウォートン校MBA、ジョンズ・ホプキンス大国際関係論修士。人と組織の関係や女性活躍に関心を寄せ続けている。『LISTEN——知性豊かで創造力がある人になれる』監訳

# Deep Sync by STORIUM

## 参加スタートアップ

株式会社bionto  
株式会社BiPSEE  
株式会社Ashirase  
mocomoco株式会社  
株式会社Plasma  
株式会社ERISA  
株式会社Epsilon Molecular Engineering  
MORPHEUS株式会社  
株式会社NERON  
株式会社ミーバイオ  
株式会社ファーマンステーション  
株式会社クオンタムフラワーズ&フーズ  
マイクロバイオファクトリー株式会社  
BioPhenolics株式会社  
株式会社イノカ  
株式会社JOYCLE  
ポルタパーク株式会社  
ネクスファイ・テクノロジー株式会社  
株式会社ソラリス  
株式会社UMIAILE  
株式会社オリィ研究所  
Zip Infrastructure株式会社  
テトラ・アビエーション株式会社  
株式会社シンギュレイト  
株式会社Eco-Pork  
MUSVI株式会社  
E-OPTO  
株式会社AOZORA  
株式会社NexaScience  
株式会社MEMORY LAB

本セッションは、スタートアップ×事業会社・CVCによるクローズドな1 on 1セッションとして開催されます。セッション中は、一般参加の参加はできませんのでご注意ください(休憩時間や懇親会の時間を通じてご交流ください)。

Deep Sync by STORIUMセッションの詳細:<https://open.storium.jp/event/9978>

※本セッションは、セッション主催の株式会社グランストーリー (STORIUM) 及び、協力機関のBeyond Next Ventures 株式会社、UntroD Capital Japan株式会社、株式会社ジェネシア・ベンチャーズの協力によって運営されています。

モデレーター



越智敬之

株式会社グランストーリー 代表取締役CEO

1974年神戸市生まれ。阪神淡路大震災を経て、情報インフラが人と社会をつなぐ力を痛感。サイバーエージェント、AOI Pro、IDOMでマーケティングやクリエイティブ部門の戦略立案と組織再編、新規事業開発やオープンイノベーション、人材育成を担当。2019年、社会課題解決と新産業創造を目的に株式会社グランストーリーを創業。次世代イノベーションを牽引するスタートアップ・研究者・投資家・事業会社が集まるイノベーション・プラットフォーム「STORIUM」を運営中。

# ARTと感性の力を活かした 未来創造

ARTや感性が未来創造につながる。そうした言説は近年ますます広がりつつあります。一方で、それは一体何を意味しているのか。本セッションでは、ART、感性を事業活動の創造や人々のリーダーシップの創造、また起業や起業家育成につなげてきた異なる立場の登壇者と共に、ART、感性がもつ力が意味するところを共に掘り起こし、探究していきます。

14:00-15:15

DAY 2

Sept. 19



## 松永エリック・匡史

青山学院大学 地球社会共生学部 教授 学部  
長 / ビジネスコンサルタント / 音楽家

1967年、東京生まれ。青山学院大学大学院国際政治経済学研究所修士課程修了。幼少期を南米(ドミニカ共和国)やニューヨークなどで過ごし、15歳からプロミュージシャンとして活動。米国パーリー音楽院でミック・グッドリックに師事、JAZZギターを学ぶ。大手メーカーのシステムエンジニア、AT&Tを経たのち、コンサル業界に。アクセンチュア、野村総合研究所、日本IBMを経て、デロイトトーマツ コンサルティングにてメディアセクターAPAC統括パートナーに就任。その後PwCコンサルティングにてデジタルサービス日本統括パートナーに就任し、デジタル事業を立ち上げ、エクスペリエンスセンターを設立、初代センター長を務めた。2018年よりONE NATION Digital & Mediaを立ち上げ、大手企業を中心にデジタル変革(DX)のコンサルを行う。2019年、青山学院大学 地球社会共生学部 (国際ビジネス・国際経営学) 教授に就任、アーティスト思考を提唱。学生と社会人の共感と創造の場「エリックゼミ」において社会課題の解決に挑む。2023年より地球社会共生学部 学部長。



## 中野民夫

東京科学大学(旧 東工大)名誉教授

1957年東京都生まれ。1982年東京大学文学部卒業後、広告会社(博報堂)に30年間勤務。社内外で参加型ワークショップの企画・ファシリテーションを実践し、日本におけるファシリテーション草創期を牽引した。2012年同志社大学大学院教授、2015年東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授に就任。2023年定年退職し東京工業大学名誉教授。現在はファシリテーターとして全国各地で環境・平和・地域再生など様々なテーマの対話の場をプロデュースする傍ら、屋久島で「本然庵」を主宰している。著書に「ファシリテーション革命」「みんなの楽しい修行」などがある。



## 中島隆太

University of Minnesota Duluth/  
Kwahuu Ocean Professor

美術家、研究者、僧侶。ミネソタ大学ダールズ校芸術学部教授(絵画)、沖縄科学技術大学院大学 OIST 客員研究員、博士(芸術学)。生態学、行動学、進化生物学的な研究も手掛けており、その美学的な解釈を交えた学際的な作品の発表や研究成果を報告している。論文に“Can I Talk to a Squid? The Origin of Visual Communication Through the Behavioral Ecology of Cephalopod”や“Cephalopods Between Science, Art, and Engineering: A Contemporary Synthesis” などがある。



## 井上英之

一般社団法人 INNO-Lab International  
共同代表

慶應義塾大学卒業後、外資系コンサルティング会社を経て、2003年に社会起業向け投資団体「ソーシャルベンチャー・パートナーズ(SVP)東京」を設立。若い社会起業家の育成や、新しい試みの生まれる生態系づくりに取り組む。2005年より、慶應義塾大学SFCで社会起業に関わるカリキュラムをつくり、そこから生まれた「マイプロジェクト」という学びの手法は、全国の高校生から社会人まで実践されている。2009年に世界経済フォーラム「Young Global Leader」に選出。2021年まで、慶應義塾大学特別招聘教授。2021年、「スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー日本版」を創刊。さとのば大学名誉学長(Chief Co-Learner)も務める。

モデレーター



## 隅屋輝佳

デザインリサーチャー

東京都東村山出身。海外青年協力隊、NPO法人でのオープンイノベーション推進業務などに従事。慶應大学SDMIにて、マルチステークホルダーによるルールメイキングについて研究し修士号取得。その後、自身の団体や世界経済フォーラム第四次産業革命日本センターにて、ひらかれた自律分散的なガバナンスのあり方として、アジャイルガバナンスを推進する。文化人類学者エスコバルの多元世界の概念と巡りあってから、ケアやマルチスピーシーズをキーワードに、自然との新たな関わり方、多元的なガバナンスのあり方を模索する。

# 気候変動と変動する 気候帯への適応

40度近い気温を観測することが日常化する日本の酷暑。気候変動には抑制とともに適応というテーマが同時に存在します。本セッションでは、気候変動への適応を「移動」というキーワードで捉えながら、人類学、歴史学、生態学の力を借り、今の時代に我々が求められる適応について問い、答えを見出していきます。私たちが見るべき現象、見えていない道は何か、本セッションでは気候変動という大きなキーワードに埋もれがちな未来に向けた道筋について共に対話します。

15:45-17:00

DAY 2

Sept. 19



小野邦彦

株式会社坂ノ途中 代表取締役

1983年奈良県生まれ。2007年京都大学総合人間学部卒業後、フランス系金融機関に勤務。2009年に京都市で株式会社坂ノ途中を設立。「100年先もつづく、農業を。」のビジョンを掲げ、農業や化学肥料を使わずに栽培された農産物の販売に取り組む。提携農業者の約8割が新規就農者であり、東南アジアで森林保全と山間地域の所得向上を図る「海ノ向こうコーヒー」の展開など、環境負荷の小さい農業の普及に尽力している。



太田博樹

東京大学大学院理学系研究科  
生物科学専攻 教授

1968年生まれ。1997年東京大学大学院理学系研究科博士課程修了、博士(理学)。ドイツ・マックスプランク進化人類学研究所研究員や米国イェール大学医学部博士研究員を経て、2005年東京大学大学院新領域創成科学研究科助教に就任。2010年北里大学医学部准教授を歴任し、2019年より現職。専門は人類集団遺伝学・分子人類進化学。古代DNAやゲノム多様性の解析を通じて人類の進化史や遺伝情報の活用に関する研究を推進している。



渡邊剛

総合地球環境学研究所 准教授

北海道大学理学部卒業、同大学大学院地球環境科学研究科博士課程修了。東京大学海洋研究所、国立科学博物館、地質調査所、オーストラリア国立大学、フランス国立気候環境研究所、ドイツ・アーヘン工科大学などで研究員を務め、ハワイ大学ケウロ海洋研究所客員研究員も歴任。現在、北海道大学理学研究院講師、喜界島サンゴ礁科学研究所理事長、総合地球環境学研究所准教授。専門はサンゴ礁地球環境学。世界各地のサンゴ礁に赴き地球環境の謎に挑戦してきたが、近年は人間と自然の関係性にも着目し、地域の在来知の復原と未来社会への展開について探究を行っている。



山本浩司

東京大学 経済学部 経営学科 准教授

2003年慶應義塾大学法学部政治学科卒業。2009年英国ヨーク大学大学院歴史学研究科博士課程修了(Ph.D.取得)。博士号取得後、英国キングズ・カレッジ・ロンドンやセント・アンドリュース大学、ケンブリッジ大学などでの研究員を経て、2016年東京大学大学院経済学研究科専任講師(経営史)に着任。2018年同准教授に就任し、現職。専門は近世イギリス史、経済史、経営史。2018年には「資本主義の手なづけ」をテーマとした著書『資本主義の手なづけ(Taming Capitalism before its Triumph)』をオックスフォード大学出版局から刊行。令和元年度東京大学卓越研究員。全国の歴史系研究者を対象に「歴史家ワークショップ」を開講し、優れた学術成果を社会と広く共有する場を提供している。

モデレーター



青木志保子

Wholeness Lab 代表

専門は環境学。東京大学大学院新領域創成科学研究科環境システム学修士課程(環境学修士)修了後、地方自治体職員、NGO職員、NPO職員、大学研究者を経て2021年にWholeness Labとして独立。現在、東京大学大学院新領域創成科学研究科環境システム学 後期博士課程在籍。その他、国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 主任研究員(併任)、芝浦工業大学非常勤講師、特定非営利活動法人ミラツク 研究員(非常勤)、等。3児の母。

# 未来の経済と公共を問う哲学



高橋徹

博報堂UNIVERSITYofCREATIVITY 局長 /  
一般社団法人京都哲学研究所

1968年愛知県生まれ。慶應義塾大学商学部卒。博報堂にて幅広いクライアントとのビジネスのフロントライン業務に長年携わり、今年4月より博報堂が運営する創造性研究機関「University of Creativity (UoC)」の局長を務める。産業界とアカデミアの連携を目指し一般社団法人京都哲学研究所のメンバーとしても活動し、産官学や文理芸の垣根を超えた対話と創発の場づくりに取り組んでいる。多様な分野の専門家や市民を結びつけ、創造性と哲学の観点からより善い未来社会の実現を目指している。



宇佐美誠

京都大学 大学院地球環境学・ミュンヘン  
工科大学 人工知能倫理研究所 教授・客員  
教授

ハーバード大学哲学部客員研究員の後、東京工業大学大学院社会理工学研究所教授などを経て、現職。博士(法学)。日本公共政策学会会長、法哲学・社会哲学国際学会連合の元日本支部長。専門は、法哲学・政治哲学。分配的正義論などの原理的研究の他、グローバル正義・世代間正義・気候正義、AI倫理学、存亡リスク研究などの応用的研究も行ってきた。近著に、『AIで変わる法と社会:近未来を深く考えるために』(編者、岩波書店、2020年)、『持続可能な未来のためのガバナンス』(英語、共編著、シュプリンガー社、2023年)など。



望目卓生

大阪大学社会ソリューションイニシアティブ  
特任教授

1959年岐阜県生まれ。1983年慶應義塾大学経済学部卒業。1988年京都大学大学院経済学研究科博士課程修了、経済学博士。立命館大学経済学部助教授を経て、2001年より大阪大学教授に就任。専門は経済思想史。産業革命期のイギリス経済思想やアダム・スミスの研究で知られ、経済学の歴史的考察を通じて現代社会における経済と道徳・幸福の関係を論じている。著書『アダム・スミス』で2008年にサントリウ学芸賞を受賞し、2019年に紫綬褒章を受章。



占部まり

宇沢国際学館 代表取締役 / 医師

1965年米国シカゴ生まれ。1990年東京慈恵会医科大学卒業。内科医。1992~94年米国メイヨークリニック研究員(ポストドクトラルフェロー)。現在、地域医療の現場で診療に従事するかわら、父・宇沢弘文が提唱した「社会的共通資本」の理念の継承と普及に努める。2014年父の逝去に伴い株式会社宇沢国際学館取締役就任。講演録集『人間の経済』(宇沢弘文著、新潮新書)の編集を手掛けるなど、その思想を伝える活動を展開。2017年に日本メント・モリ協会を設立し代表理事に就任。現在、宇沢国際学館代表取締役。

知的資本や文化資本、自然資本といった、これまでの経済では資源の背景に隠れてしまっていた物事を経済の中で捉えるためにどのように新しい経済の仕組みがつかれるか。そもそも公共とは何かから問い直し、現代社会の資本主義がさらに一歩前に踏み込んで進むために何を考えていく必要があるか。本セッションでは、未来の経済と公共を問う、野心的な議論に取り組みます。

モデレーター



西村勇哉

株式会社エッセンス 代表取締役 /  
NPO法人ミラツク 代表理事

1981年大阪府池田市生まれ。大阪大学大学院にて人間科学の修士を取得。人材開発ベンチャー企業、公益財団法人日本生産性本部を経て、2011年にNPO法人ミラツクを設立し代表に就任。セクターや職種、領域を超えたイノベーションプラットフォームの構築や大手企業の新規事業開発支援、研究開発プロジェクトの立ち上げ支援などに取り組む。2017年から2022年3月まで理化学研究所未来戦略室イノベーションデザイナーを兼務。2021年に株式会社エッセンスを創業し、研究知と社会をつなぐ「Knowledge Tech」事業を展開。大阪大学社会ソリューションイニシアティブ招聘教授も務める。

# 研究者と直接繋がれる未来 現代社会におけるパトロンの再発明

2023年9月、esse-senseでは新たな資金提供システムとしてパトロンサービスを開始しました。開始から2年が経過し、β版のトライアルにご協力いただいた8名の研究者のもとには数百万円の研究補助となる資金が集まりました。研究者にとって求められる資金と、企業・市民としてその知に触れる機会が両立することで、世の中に新しいエンジンとなるサイクルがいかに起こり得るか。本セッションでは、2年間の取り組みを振り返り、本格稼働に向けた改訂を共に描いていく共創のための対話の場です。

15:45-17:00

DAY 2

Sept. 19



仲隆介

京都工芸繊維大学 名誉教授

東京理科大学工学部助手、マサチューセッツ工科大学建築学部客員研究員(フルプライター)、宮城大学助教授、京都工芸繊維大学教授等を経て、現職。建築学と経営学の融合分野において、ワークプレイスをテーマの研究を行っており、同時に、企業や自治体と次世代のワークプレイスを模索する活動を展開している。新世代クリエイティブオフィス研究センター長、日経ニューオフィス賞審査委員、JFMA賞審査委員、長崎県庁舎、西予市役所など多数の自治体アドバイザー、厚木市、北区庁舎建築審査員などを務める。著書(共著)に、「変化するオフィス(丸善)」「オフィスの夢(彰国社)」「Post Office (TOTO出版)」「Collaborative Design and Learning: Competence Building for Innovation (PRAEGER)」などがある。



大黒達也

東京大学大学院 情報理工学系研究科・次世代知能科学研究センター 准教授

1986年、青森県八戸市生まれ。2016年、東京大学大学院医学系研究科内科学専攻医学博士課程を修了。オックスフォード大学医科学部実験心理学部、マックスプランク研究所神経心理学部、ケンブリッジ大学教育神経科学研究所の研究員を経て、2020年4月より現職。音楽や言語がどのように学習されるのかについて、神経科学と計算論的手法を用い、領域横断的に研究。神経生理データから脳の「創造性」をモデル化し、創造性の起源とその発達の過程を探っている。また、それらの研究結果をもとに新たな音楽理論を構築し、現代音楽の制作にも取り組んでいる。著書に『芸術的創造は脳のどこから生まれるか?』『AI時代に「自分の才能を伸ばす」ということ』『音楽する脳 天才たちの創造性と超絶技巧の科学』、監修本に『GOOD VIBRATIONS 最高の体調をつくる音楽の活用法』などがある。



久保田しおん

ハーバード大学 博士課程

1997年神奈川県横浜生まれ。高校まで日本の女子校で過ごしたのち、米国Mount Holyoke Collegeに進学。物理(専攻)、哲学(Certificate)、コンピューターサイエンス(副専攻)、数学(副専攻)を学び、2019年に卒業。卒業後は、ハーバード大学にて1年間客員研究員としてニュートリノ検出器のデザイン・エンジニアリングの研究を行い、その後、ハーバード大学物理博士課程に進学。現在はマンチェスター大学物理学部にも在籍し、世界最大のニュートリノ研究グループであるDUNEのプロジェクトに携わる。



石津智大

関西大学 文学部 教授

関西大学文学部教授。2009年に慶應義塾大学大学院社会学研究科心理学専攻で心理学博士号を取得し渡欧。ロンドン大学ユニバーシティ校生命科学部生物科学科リサーチフェロー(2009-2016)、ウィーン大学心理学部リサーチャー(2016-2018)、ロンドン大学ユニバーシティ校生命科学部生物科学科シニアリサーチフェロー(2018-2020)などを経て現職。



小野悠

豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 准教授

2016年東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程修了。博士(工学)。アフリカ・アジア・南米など約70カ国でのフィールド経験を基盤に、人びとが自ら築く都市空間=インフォーマル・アーバニズムの理論と実践手法の開発に取り組む。誰もが暮らしやすい都市づくりを目指し、スマートシティや災害復興なども研究。日本学術会議若手アカデミー代表、JAAS代表理事、Global Young Academyメンバーなど。

モデレーター



安田洋祐

大阪大学 大学院経済学研究科 教授

1980年生まれ。2007年プリンストン大学で経済学Ph.D取得。政策研究大学院大学助教授、大阪大学准教授を経て2022年7月より大阪大学教授。専門はゲーム理論とマーケットデザイン。オークションやマッチングなど市場制度の設計に関する研究を行い、2020年に株式会社エコノミクスデザインを共同創業。テレビや著書を通じて経済学の普及にも努め、ダイバーシティやサステナビリティに関する発信・提言も行う。

# Deep Sync by STORIUM

## 参加スタートアップ

株式会社bionto  
株式会社BiPSEE  
株式会社Ashirase  
mocomoco株式会社  
株式会社Plasma  
株式会社ERISA  
株式会社Epsilon Molecular Engineering  
MORPHEUS株式会社  
株式会社NERON  
株式会社ミーバイオ  
株式会社ファーマンステーション  
株式会社クオンタムフラワーズ&フーズ  
マイクロバイオファクトリー株式会社  
BioPhenolics株式会社  
株式会社イノカ  
株式会社JOYCLE  
ポルタパーク株式会社  
ネクスファイ・テクノロジー株式会社  
株式会社ソラリス  
株式会社UMIAILE  
株式会社オリィ研究所  
Zip Infrastructure株式会社  
テトラ・アビエーション株式会社  
株式会社シンギュレイト  
株式会社Eco-Pork  
MUSVI株式会社  
E-OPTO  
株式会社AOZORA  
株式会社NexaScience  
株式会社MEMORY LAB

本セッションは、スタートアップ×事業会社・CVCによるクローズドな1 on 1セッションとして開催されます。セッション中は、一般参加の参加はできませんのでご注意ください(休憩時間や懇親会の時間を通じてご交流ください)。

Deep Sync by STORIUMセッションの詳細:<https://open.storium.jp/event/9978>

※本セッションは、セッション主催の株式会社グランストーリー (STORIUM) 及び、協力機関のBeyond Next Ventures 株式会社、UntroD Capital Japan株式会社、株式会社ジェネシア・ベンチャーズの協力によって運営されています。

モデレーター



越智敬之

株式会社グランストーリー 代表取締役CEO

1974年神戸市生まれ。阪神淡路大震災を経て、情報インフラが人と社会をつなぐ力を痛感。サイバーエージェント、AOI Pro、IDOMでマーケティングやクリエイティブ部門の戦略立案と組織再編、新規事業開発やオープンイノベーション、人材育成を担当。2019年、社会課題解決と新産業創造を目的に株式会社グランストーリーを創業。次世代イノベーションを牽引するスタートアップ・研究者・投資家・事業会社が集まるイノベーション・プラットフォーム「STORIUM」を運営中。

# 循環するブルーエコノミーと 地域経済の未来

海洋生態系の循環、海洋と人の社会の循環、この2つを両立する新たなブルーエコノミーを生み出すために、科学の力はどのようにその成果を活かすことができるのか。本セッションでは、研究発のスタートアップや社会接続の取り組みを起点に、循環を描くシステムデザインを考え方を取り入れて、海洋と人の二重循環を実現する道筋を検討します。

15:45-17:00

DAY 2

Sept. 19



光斎翔貴

立命館大学食マネジメント学部 准教授

1992年生まれ。京都大学エネルギー科学研究科博士後期課程修了。博士(京都大学エネルギー科学)。エネルギー・資源・環境と社会との関わりをテーマとして、基礎研究から社会実装までをモットーに日々奮闘中。



笥祐介

NPO法人issue+design 代表理事

1975年福井県生まれ。1998年一橋大学社会学部卒業、株式会社博報堂入社。マーケティング戦略の立案やブランドデザイン業務に携わる。2008年山崎亮氏らとソーシャルデザインプロジェクト「issue+design」を開始。2011年東京大学大学院博士課程修了、博士(工学)取得。2015年同プロジェクトをNPO法人化し、代表理事に就任。社会課題解決や地方創生のためのデザインの研究・実践に取り組み、震災復興支援から認知症介護まで数多くのプロジェクトを手掛ける。専門はソーシャルデザイン。現在、NPO法人issue+design代表理事を務め、慶應義塾大学大学院特任教授など複数の教育機関でも教鞭を執る。



征矢野清

長崎大学海洋未来イノベーション機構 教授

信州松本出身。北海道大学水産学部卒業。同大学大学院水産学研究科博士課程修了、博士(水産学)取得。1993年長崎大学水産学部助手に着任。1997年より同大学助教授(2007年より准教授)、2008年教授に就任。現在、長崎大学海洋未来イノベーション機構 環東シナ海環境資源研究センター長を兼務。魚類の繁殖生理学が専門で、水温・日長・月周期など環境要因や環境ホルモンが魚類の繁殖に及ぼす影響を解明するとともに、ハタ類・ブリ類など水産重要種の種苗生産技術開発に取り組んでいる。2020年から次世代養殖戦略会議会長も務める。

モデレーター



谷本有香

Forbes JAPAN Web編集長・執行役員

Forbes JAPAN 執行役員 Web編集長証券会社勤務、Bloomberg TVにて金融経済アンカーを経て、2004年に米国にてMBAを取得。その後、日経ONBCキャスターとして活躍し、同局初の女性コメンテーターを務める。2016年よりForbes JAPANに参画し、経済ジャーナリストとして数多くの企業トップにインタビューを行う。現在、Forbes JAPAN 執行役員 Web編集長としてメディア運営を牽引するとともに、テレビやラジオなど各種メディアでも経済解説者として活動している。

# 生成AIの歴史、発展、 そして未来へ



ジャド・タリフィ

Integral AI社 共同創業者 兼 CEO

1983年レバノン生まれ。フロリダ大学大学院にて人工知能分野の博士号を取得。博士論文では脳に着想を得た数学的に厳密な知能理論を研究し、さらに量子コンピューティングの修士号も取得。Google AIに約10年間在籍し、世界初のジェネレーティブAIチームを立ち上げ、新皮質に着想を得た研究を主導した。2021年にスケーラブルでエネルギー効率の高いAGIを目指すIntegral AIを共同創業し、CEOに就任。人類をスーパーインテリジェンスへと近づける技術的ブレークスルーを推進している。著書『Freedom Series』(全4巻)では、AGI時代のAIの未来、人間の可能性、社会変革について提言を行い、幅広い国際的活動を展開している。

googleにて世界初の生成AIチームを立ち上げ、人工知能分野の博士号、そして量子コンピューティングの修士号を持つJad Tarifi(ジャド・タリフィ)による特別講義を実施します。生成AIの過去・現在・そして未来に向けて、情報科学と共に開かれるAIと人間の未来について垣間見る独演会です。※本セッションでは専門の通訳がつき、日本語での参加が可能です。

# 未来の兆し 「場所」に根ざす価値創造

空間とは異なる「場所」の概念。近年、未来を描くキーワードの一つとして、場所や場所固有性という考え方に改めてフォーカスが当たっています。その土地に積み重なる、歴史、文化、その背景にある時間。場所ならではの価値を生かしていくために私たちはどのようなアプローチができるのか。情報化によってコモディティ化された事象が増え続ける現代において、そのゆるぎない固有性によって新たな価値の軸となる場所について、複数の異なる角度から議論を深めます。



西廣淳

国立環境学研究所 気候変動適応センター  
副センター長

土木研究所研究員、東京大学農学生命科学研究科助教、東邦大学理学部准教授を経て、2019年に国立環境研究所気候変動適応センターに入所。専門は生態学。地域協働によるグリーンインフラの活用に取り組む。日本生物多様性観測ネットワーク (JBON) 代表、里山グリーンインフラネットワーク代表、東邦大学大学院客員教授、東京大学大学院連携併任教授。



成瀬久美

非営利株式会社蓮葉果紅 代表取締役

幼少期に体験した「スプーン一杯のお米」寄付活動を皮切りに、フィランソロピー活動に意欲的。日本と外国との接点を作るエージェント事業・文化支援活動を行う傍ら、約50カ国の企業・財団・NPOとの連携・支援活動を経て、農業と「場」のデザインによる平和創造を志す。2023年に非営利株式会社蓮葉果紅を設立し、代表として有機農業や教育、難民支援など多面的なプロジェクトを通じ、地域性に沿った「調和のある世界」の実現を目指している。



齋藤暖生

東京大学大学院農学生命科学研究科  
附属演習林 講師

1978年岩手県生まれ。京都大学大学院農学研究科森林科学専攻博士課程修了(農学博士)。2007年より東京大学附属演習林助手として着任し、2020年4月から2023年3月まで富士癒しの森研究所長、2023年4月より樹芸研究所長。山菜・きのこ採りなど人と森の関わりの民俗・文化的研究や、自然資源へのアクセス性、森林協働管理の研究に取り組み、森と人間の関係再構築に向けた実践を進めている。

モデレーター



西村勇哉

株式会社エッセンス 代表取締役/  
NPO法人ミラツク 代表理事

1981年大阪府池田市生まれ。大阪大学大学院にて人間科学の修士を取得。人材開発ベンチャー企業、公益財団法人日本生産性本部を経て、2011年にNPO法人ミラツクを設立し代表に就任。セクターや職種、領域を超えたイノベーションプラットフォームの構築や大手企業の新規事業開発支援、研究開発プロジェクトの立ち上げ支援などに取り組む。2017年から2022年3月まで理化学研究所未来戦略室イノベーションデザイナーを兼務。2021年に株式会社エッセンスを創業し、研究知と社会をつなぐ「Knowledge Tech」事業を展開。大阪大学社会ソリューションイニシアティブ招聘教授も務める。

# 未来学とSINIC

## 未来洞察から見据える次世代社会

オムロン創業者の立石一真さんが1970年に開かれた国際未来学会で発表した2033年までの未来の道程を示す「SINIC理論」。その羅針盤を自ら使いこなすために、SINIC自体を学ぶ特別講義を準備しました。SINIC理論と社会をつなぐためのオムロンの研究子会社として設立されたヒューマンルネッサンス研究所で長年代表取締役を務められてきた中間真一さんに、SINICの基礎・概要を徹底レクチャーいただきます。



中間真一

株式会社ヒューマンルネッサンス研究所  
エグゼクティブフェロー

1959年生まれ。慶応義塾大学工学部卒業、埼玉大学大学院（経済学）修了。株式会社ヒューマンルネッサンス研究所の創設メンバーとして参画し、オムロン創業者らによる未来予測理論「SINIC理論」を活かした未来社会研究に従事して現在に至る。「自動」「自律」「自然」をテーマとした人とテクノロジーのインタラクション、「遊」「学」「働」の未来展望など、創設以来Do tankを目指し、フィールドで未来予測を探索し、「てら子屋」など未来の担い手が育つフィールドづくりも手がける。共著書に『スウェーデン—自律社会を生きる人びと—』（早稲田大学出版部）、『北欧学のフロンティア』（ミネルヴァ書房）など。

モデレーター



谷本有香

Forbes JAPAN Web編集長・執行役員

Forbes JAPAN 執行役員 Web編集長証券会社勤務、Bloomberg TVにて金融経済アンカーを経て、2004年に米国にてMBAを取得。その後、日経ONBCキャスターとして活躍し、同局初の女性コメンテーターを務める。2016年よりForbes JAPANに参画し、経済ジャーナリストとして数多くの企業トップにインタビューを行う。現在、Forbes JAPAN 執行役員 Web編集長としてメディア運営を牽引するとともに、テレビやラジオなど各種メディアでも経済解説者として活動している。

# 100年先のための 資金を科学へ

100年先を見据えて、我々は今の世代としていかに資金を先の未来に向けて用いていけるか。未来への世代を超えた投資として科学に資金を回す仕組みを、個人の共感や志ではなくより広い経済活動の中でどのように実現できるかについて、実践の現場にいる方々と共に問います。



北真理子

一般社団法人Stellar Science Foundation  
共同創設者・業務執行理事

慶應義塾大学経済学部卒業後、三菱商事株式会社にて新規事業開発やIR業務に従事。2021年にシンガポール国立大学でMBAを取得し、同年末に再生医学研究者である武部貞則教授らと共にStellar Science Foundation (SSF)を共同創設。卓越した研究者の発掘・支援を通じ、世界を大きく飛躍させる想像を超えた発見・発明が加速度的かつ持続的に生み出される科学研究エコシステムの構築を志している。



橋本麻里

一般社団法人刀剣文化研究保全機構  
業務執行理事

1972年神奈川県生まれ。国際基督教大学教養学部卒業後、出版社勤務を経てフリーのライター・編集者に転身。日本の古典美術・工芸から現代アートまで幅広い知見を持ち、雑誌・新聞への寄稿、美術展の監修・企画解説、テレビ番組の美術解説など多方面で活躍。2023年より刀剣文化研究保全機構の業務執行理事として刀剣文化の調査研究・保存支援に携わる。



小野悠

豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系  
准教授

2016年東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程修了。博士(工学)。アフリカ・アジア・南米など約70カ国でのフィールド経験を基盤に、人びとが自ら築く都市空間—インフォーマル・アーバニズムの理論と実践手法の開発に取り組む。誰もが暮らしやすい都市づくりを目指し、スマートシティや災害復興なども研究。日本学術会議若手アカデミー代表、JAAS代表理事、Global Young Academyメンバーなど。



小山有沙

ゲイツ財団 日本統括

ゲイツ財団にて、日本におけるグローバルヘルス、ジェンダー平等に関するアドボカシーを統括。財団参画以前は、ゴールドマン・サックス証券の投資銀行部門にて、M&Aアドバイザリー及び株式・債券発行業務を担当。早稲田大学およびシンガポール国立大学で学士号、ペンシルベニア大学ウートン・スクールでMBAを取得。



占部まり

宇沢国際学館 代表取締役／医師

1965年米国シカゴ生まれ。1990年東京慈恵会医科大学卒業。内科医。1992～94年米国メイヨークリニック研究員(ポストドクトラルフェロー)。現在、地域医療の現場で診療に従事するかたわら、父・宇沢弘文が提唱した「社会的共通資本」の理念の継承と普及に努める。2014年父の逝去に伴い株式会社宇沢国際学館取締役に就任。講演録集『人間の経済』(宇沢弘文著、新潮新書)の編集を手掛けるなど、その思想を伝える活動を展開。2017年に日本メント・モリ協会を設立し代表理事に就任。現在、宇沢国際学館代表取締役。

# Deep Sync by STORIUM

## 参加スタートアップ

株式会社bionto  
株式会社BiPSEE  
株式会社Ashirase  
mocomoco株式会社  
株式会社Plasma  
株式会社ERISA  
株式会社Epsilon Molecular Engineering  
MORPHEUS株式会社  
株式会社NERON  
株式会社ミーバイオ  
株式会社ファーマンステーション  
株式会社クオンタムフラワーズ&フーズ  
マイクロバイオファクトリー株式会社  
BioPhenolics株式会社  
株式会社イノカ  
株式会社JOYCLE  
ポルタパーク株式会社  
ネクスファイ・テクノロジー株式会社  
株式会社ソラリス  
株式会社UMIAILE  
株式会社オリィ研究所  
Zip Infrastructure株式会社  
テトラ・アビエーション株式会社  
株式会社シンギュレイト  
株式会社Eco-Pork  
MUSVI株式会社  
E-OPTO  
株式会社AOZORA  
株式会社NexaScience  
株式会社MEMORY LAB

本セッションは、スタートアップ×事業会社・CVCによるクローズドな1 on 1セッションとして開催されます。セッション中は、一般参加の参加はできませんのでご注意ください(休憩時間や懇親会の時間を通じてご交流ください)。

Deep Sync by STORIUMセッションの詳細:<https://open.storium.jp/event/9978>

※本セッションは、セッション主催の株式会社グランストーリー (STORIUM) 及び、協力機関のBeyond Next Ventures 株式会社、UntroD Capital Japan株式会社、株式会社ジェネシア・ベンチャーズの協力によって運営されています。

モデレーター



越智敬之

株式会社グランストーリー 代表取締役CEO

1974年神戸市生まれ。阪神淡路大震災を経て、情報インフラが人と社会をつなぐ力を痛感。サイバーエージェント、AOI Pro、IDOMでマーケティングやクリエイティブ部門の戦略立案と組織再編、新規事業開発やオープンイノベーション、人材育成を担当。2019年、社会課題解決と新産業創造を目的に株式会社グランストーリーを創業。次世代イノベーションを牽引するスタートアップ・研究者・投資家・事業会社が集まるイノベーション・プラットフォーム「STORIUM」を運営中。

# 研究者と企業の出会いの 新たな姿をデザインする



中西裕子

株式会社資生堂 ブランド価値開発研究所  
Shiseido Beauty Park 価値共創室 グループ  
マネージャー / 『fibona』プロジェクトリーダー  
名古屋大学大学院物質理学専攻(化学系)修士課程修  
了後、資生堂に入社。スキンケア処方開発、化粧品基剤  
の基礎研究、デザイン思考を取り入れた研究テーマ設  
定等を経て、現在はブランド価値開発研究所 Shiseido  
Beauty Park 価値共創室のグループマネージャーとし  
てR&D戦略・新規研究企画に携わる。資生堂R&Dのオー  
プンイノベーションプログラム『fibona』のプロジェクト  
リーダーとして、スタートアップや研究機関との共創を  
推進している。



中村雅紀

日産自動車株式会社 総合研究所  
研究企画部 部長

慶應義塾大学院化学専攻 修士課程修了後、日産自動車  
株式会社 総合研究所 材料研究所に入社。排気ガス浄  
化触媒の研究開発、ロシアでの新規材料研究企画など  
を経て、2024年より研究企画部 部長として、日産総合  
研究所の研究開発ビジョン/策定や研究ポートフォリオ  
管理を統括。現在は、次世代モビリティ社会の実現に向  
けた提言を行っている。



馬場良子

東京大学理学系研究科 准教授、  
東京大学シニアURA

原子核物理学の研究に従事し、博士号取得後、2013年  
4月より日本科学未来館で科学コミュニケーターとし  
て勤務。2015年4月より理学系研究科にURAとして着任。  
2021年1月より中央大学にて研究広報担当のURAとして  
勤務した後、2022年3月より現職。



中村恵莉香

立命館大学 研究部 研究推進課 課長補佐

2010年学校法人立命館入職。学生のキャリア支援部門、  
広報課、教学部門を経て現職。広報課では、研究成果や  
教育プログラムのメディアリレーション・SNSを担当。現  
在は研究に特化した広報戦略や対外発信に取り組む。  
国家資格キャリアコンサルタント資格も持ち、学生支援  
の視点を活かした情報発信にも努めている。

研究者と企業、互いに求め合っているにも関わらずコミュニケーションは意外にもすれ違  
いを続けているように見られます。本セッションでは、企業側のニーズを直接的に伺いな  
がら、大学側の取り組み可能性について直接的に考える。ありそうでなかった両者の直接コ  
ミュニケーションの場を設け、その実現可能性について探ります。



大久保知美

OISTメディア連携セクションマネージャー

様々な国や分野でコミュニケーション及び広報業務  
に従事してきた経験から、幅広いネットワークを構築。  
OISTにおいて、戦略的メディア・コミュニケーションの企  
画・実施・管理を行っています。OISTメンバーと国内外の  
メディアとの間の主要窓口となっており、着任後にOIST  
は国内外の著名メディアで取り上げられることが多くな  
りました。さらに、新聞コラムやウェブ記事の執筆、ソー  
シャルメディアへの投稿、イベントの企画など、OISTの  
知名度向上に貢献しています。フランスソルボンヌ・パ  
リ第一大学及びパリ・ドフィン大学においてMBA取得。  
公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会 PRフ  
ランナー。

モデレーター



宝槻圭美

HOUSE OF BLOOM代表、  
一般社団法人みんなのグリーフケア理事、  
NPO法人ミラツク執行役員

国際基督教大学卒、英サセックス大学大学院(国際教育  
学)修了。幼少期から環境破壊や戦争貧困に心を痛め国  
際協力の道に進む。起業家の夫との結婚・5人の出産育  
児を通して自身と暮らしを深く見つめなおし、探究学舎  
取締役・NPO法人ミラツク執行役員として、ひとりひとり  
を大切にしながらも社会にインパクトをもたらす経営に  
挑戦。その傍らではじめての保護者むけ子育て講座や個  
人セッションで「親子関係が変わった」「人生が願って  
いた方向へ変わる」「こんなにあたがたい人間関係が手  
に入るなんて…」という声が多数届くようになり、コミュ  
ニケーションとライフスタイルのなかで非暴力を実践  
する講座をHOUSE OF BLOOMとして提供し始める。軽井  
沢在住、二男三女の母。父は沖縄出身。こよなく平和を  
愛し、本と森とコーヒーが好き。保育士資格有。一般社  
団法人みんなのグリーフケア理事。

# SPONSORS

---

特別協賛パートナー



SUNTORY



SunBOR

SUNBOY FOUNDATION for LIFE SCIENCES  
BIORGANIC RESEARCH INSTITUTE

公益財団法人 サントリー生命科学財団



pwc

---

ゴールドパートナー



ZERO  
FOUNDATION

---

法人参加企業

・HAKUHODO・



さあ、街から未来をかえよう  
三井不動産  
MITSUI FUDOSAN

日本科学未来財団



電通総研

avanade

マテリアルパートナー



当社は、「主食をイノベーションし、健康をあたりまえに。」をミッションに掲げ、たんぱく質や食物繊維、26種類のビタミン・ミネラルなど1食に必要な33種類の栄養素がすべて摂れる完全栄養の主食「BASE FOOD(ベースフード)」を2017年より製造・販売。日本におけるスマートフード完全栄養食のパイオニアとして、「かんたん・おいしい・からだにいい」のすべてをかなえる新しい主食を提案し、すべての人が食事を楽しみながら、健康があたりまえになる社会の実現を目指しています。

ESSNS FORUM限定 送料500円分無料

クーポンコード | FORUM5

有効期限 | 2025年10月31日



※公式ショップのクーポンです。QRコードよりご購入ください。Amazonや楽天ではご利用いただけません。

※継続コースの購入が初めての方、もしくは過去BASE FOOD継続コースに登録されていた方限定(継続コース(常温)のみ適用可能 / おひとりさま1回限り有効)。

# esse-sense「パトロンサービス」

推し研究者と共につくる人類の知の拡張に参加する  
月額定額制の資金提供プラットフォーム

# esse- sense

エッセンスでは、誰もが研究者と直接繋が  
り研究の後押しをすることができる、新し  
い研究コミュニティ「パトロンサービス」を  
運用しています。

自由度の高い継続的な資金こそ、研究の基  
盤を支え、未知の世界の探究を後押しして  
くれます。ぜひ、世界の知を広げる研究コ  
ミュニティにご参加ください!

## パトロン募集中の研究者

|  |  |
|--|--|
| 私たちはこの広大な宇宙でどのように生まれ、<br>なぜ存在できるのか   | 市民とともにウェルビーイングな暮らしを<br>共創するリビングラボの実践   |
| <br>久保田おん<br>ハーバード大学<br>博士課程学生               | <br>坂倉 杏介<br>東京都市大学 都市生活学部<br>教授                        |
| 神経美学で「美しい」とおもう感性と<br>他者を慮るこころの関係を解き明かす   | クリエイションとウェルビーイングを<br>向上させる新しい働き方「ネットワーク」の可能性   |
| <br>石津智大<br>関西大学 文学部<br>教授                   | <br>仲隆介<br>京都工芸繊維大学大学院<br>工芸科学研究科 名誉教授                  |
| サンゴとヒトの記憶を復元し、演劇による<br>アプローチで人と自然の関係性を探る   | リベラルアーツとしてのゲーム理論   |
| <br>渡邊 剛<br>北海道大学 総合地球環境学研<br>究所 研究部 准教授     | <br>安田 洋祐<br>大阪大学<br>教授                                 |
| 屋久島における死生観の変遷<br>(離島のGood Death研究)   | 脳の創造性・音楽の発達の起源に関する研究   |
| <br>杉下 智彦<br>屋久島尾之関診療所 理事長<br>(東京女子医科大学客員教授) | <br>大黒達也<br>東京大学大学院情報理工学系<br>研究科・次世代知能科学研究<br>センター 特任講師 |

## Patrons

パトロンサービスでは、研究者からの定  
期的な講義・講演、研究室訪問など、研  
究の世界とつながり知の拡張をいち早  
く知ることが出来るコミュ  
ニケーションの機会を提供  
しています。



# esse-sense「研究者探索システム」

23.5万人のデータベースからテーマにあった  
研究者を見つけ出すリサーチツール

2024年10月に公開したβ版を大幅にアップデートし、2025年9月に  
23.5万人のデータベースからテーマにあった研究者を見つけ出す  
研究者探索システム「ANSWER」(テスト版)をリリースしました。

## ANSWERの特徴

- 1 実在する23.5万人の大学所属研究者を中心とした研究者群から  
「探索ワードに関連する研究者を見つけ出せる」研究者データベース
- 2 専門用語や特殊なキーワードを知らなくても  
「一般用語から関連する研究者を見つけ出せる」研究者探索システム
- 3 キーワードに加えて、キーワード+大学名、キーワード+領域など  
「特定の条件で関連する研究者を見つけ出せる」絞り込みシステム
- 4 キーワードをより詳しく、より深く。「探索キーワードを提案してくれる」  
AIアシスタント機能
- 5 どの研究者も1つの資料に。概要、経歴、オリジナリティ、産業・社会課題  
との関連など「関連する情報を1箇所にまとめた」研究者レポート

R&Dや新領域事業の外部パートナー探し、委員会形成などのための有識  
者探しなど、「こういうテーマの研究者はどこにいるんだろう」の問いに  
答えてくれる、これまでにないタイプの研究者探索システムです。現在、  
使用回数などを制限したテスト版を一般公開しています。

ぜひ一度、試しに気になるテーマで研究者を探してみてください。そんな  
テーマで研究している研究者がいるんだ!という発見に出会ってもらえる  
と、とても嬉しいです。

また、事業推進など実務としての利用のための法人利用サービスにご興  
味のある方は、以下のお問い合わせフォームよりご連絡ください。法人  
利用では、回数制限の撤廃のほか、リサーチのサポートやより詳細なリ  
サーチレポートの作成など、実務に必要な要素をesse-sense社が支援し  
ます。



お問い合わせフォーム

<https://esse-sense.com/contact>

「ANSWER」の利用はこちら  
<https://esse-sense.com/researcher-search/recommend>



# ミラツク出版事業部

エッセンスの母体であるNPO法人ミラツクでは、英治出版と事業提携を行い、制作ミラツク・発売英治出版という体制で、全国の書店への展開をはじめ、広く一般向けに新たな知を届ける出版事業を行っています。

2024年に発売された『インフォーマル・パブリック・ライフ 一人が惹かれる街のルール（ミラツク出版）』は、発売前の多くの人の予想を裏切り、470ページの長文書籍にも関わらず多くの人に読まれ、著者の講演機会など様々な展開を生み出してきました。

その背景には、ミラツクが15年かけて培ってきた全国分野と業種・セクターを超えたコミュニティ型のプラットフォームの存在があります。多くの人たちに支えられ、ミラツクでは、分野を超えて知を届ける出版に取り組んでいます。

インフォーマル・パブリック・ライフ  
一人が惹かれる街のルール



融けるロボット——テクノロジーを活かして  
心地よい暮らしを共に作る13の視点

知的資本論  
なぜ大学知性が生かされないのか



MIRA TUKU

## NPO法人ミラツクが提供する 企業・学術機関向けサービス

民間大手企業の新領域の事業立ち上げ、  
企業内研究所の知的基盤の構築・イノベーション人材の育成、  
学術機関のプロジェクトインパクト評価、などに取り組む支援事業

ミラツクでは、JAXAとの宇宙ビジネスプラットフォームの立ち上げ・運営、オムロンの未来研究所の構築・実行、パナソニックの研究開発部門における社内知的基盤の構築、慶應大学COI-NEXTプロジェクトのインパクトモデルの構築、東京芸術大学J-PEAKプロジェクトのインパクト測定、など、様々な領域で10年来にわたって400を超えるプロジェクトの実行支援を伴走者として行ってきました。

ミラツクの伴走支援は、時代に応じて求められるテーマ・領域、プロジェクト実行のあり方(共創型のプロジェクト実施、インパクト評価の導入、など)が変わる中、その変遷に素早く対応し、共に取り組むものとして一定の評価を得てきました。

ミラツクの支援事業にご興味のある方は、  
右記までお問い合わせください。



# esse-sense Future Forum 2025 by

esse-  
sense

株式会社エッセンスは、「あらゆる研究「知」が自在に社会と混ざり合う機会を生み出す」ことをミッションに2021年に設立された KnowledgeTechカンパニーです。

エッセンスが運営する研究者メディア「esse-sense」

esse-sense.com



